

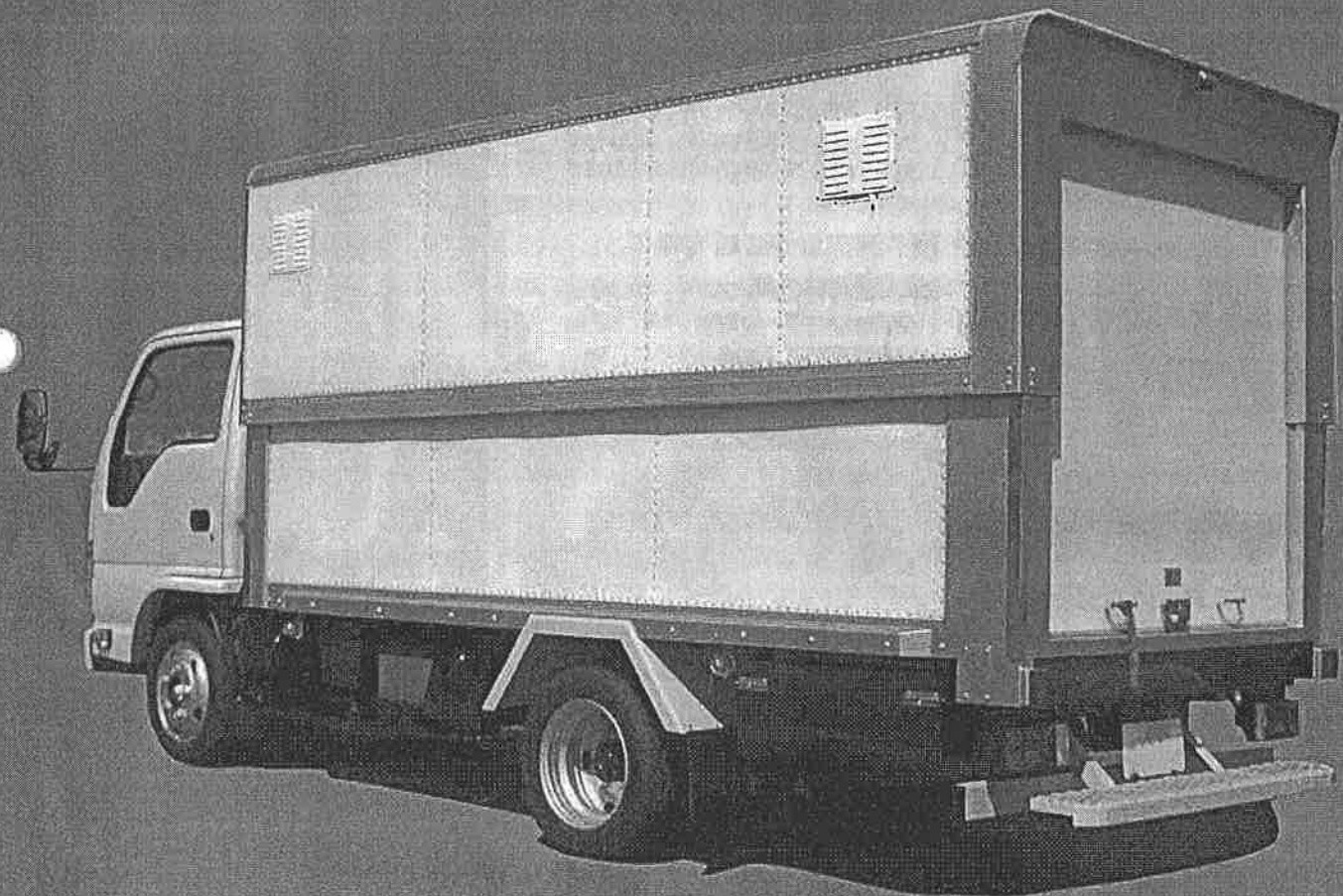
車体NEWS

JAPAN AUTO-BODY INDUSTRIES ASSOCIATION INC.

AUTUMN 2010 秋

CONTENTS

巻頭言	2	我が社の元気人	18
NEWS 特集	3	Net Work vol.61 アルサイド工業(株)	19
・環境対応事例発表会を開催		VOICE	21
・バス部会資料委員会 中国を訪問		Coffee Break	23
NEWS FLASH		DATA Flash 2010年1月～6月の生産状況	25
本部だより	9	編集後記	30
部会だより	11		
支部だより	14		
官公庁だより	14		



URL: www.jabia.or.jp/ E-mail: info@jabia.or.jp

巻頭言

SHATAI NEWS ◆ 2010. 秋

トレーラへの思い入れ

トレーラ 業界を元気にするトレーラ部会に

トレーラ部会長 西川 柳 一 郎

(日本トレクス株式会社・取締役社長)



■部会活動を始めて

私が車体工業会のトレーラ部会長に就任させていただいてから早2年の月日が過ぎました。就任当初、車体工業会内でのトレーラ部会の認知度を上げようと思い行動を開始しました。その後すぐにタンクトレーラの首都高速での横転事故、更にコンテナ積みトレーラの横転事故と、トレーラの安全性に関わる事故が続けて発生し、対応策および今後の安全性向上への取り組みについて否応なしに矢面に立つことになりました。ただし、この課題は部会だけで解決できるものではなく、この1年、会長をはじめ車体工業会全体の多大なバックアップをいただき、ようやく安全性向上策の一つとして、ROC(横転抑制装置)普及計画がまとまりつつあります。

■トレーラ大増産

思い起こせば、私の「トレーラへの思い入れ」は15～16年前に遡ります。

当時はトレーラ車両総重量の規制緩和(最大20トン→28トンへ拡大)およびABS装着の義務付け前の駆け込み特需と相まって大増産の時期でした。登録台数で1994年14,600台、1995年13,900台と過去最高でした。

この時期、各社は受注残をフルキャパで1年以上の台数を抱えていたと記憶しています。新米のトレーラ製造課長だった私は、作っても作っても受注残が減ることのない量にあきれるばかりでした。現場の変則交替勤務を一人で対応出来たのもまだ若かったからかなと思います。

1994年春から始まった繁忙期も、ABS装着の義務付けがスタートする1995年9月前には終焉を迎え、思い返せば、忙しくも楽しい時期でした。

この大増産を乗り越え、世の中にたくさんのトレーラを送り出した経験が私の「トレーラへの思い入れ」の強さの源であることに間違いはありません。

■ABSの現状

この時期からトレーラに装着が義務付けされた

ABSの市場装着率は15年経過した今でも52%とのことでした(車体工業会調査)。トラクターへのESC標準化が急速に進んでいますが、その機能発揮のためには、トレーラへのABS装着が必要条件となっています。そのため、今後は市場でのABS装着率向上への取り組みが大変重要であり、具体策については関係者と調整していきたいと考えています。

■トレーラの経年品質確保

トレーラの「製品寿命」について、経年劣化した製品に対する適正な点検・整備方式、部品の保証期間の明確化などをユーザーに周知徹底していく活動を推進するため、本年度より部会内委員会設立を目指し「品質タスクフォース」を新設しました。これによりトレーラの経年品質確保を図っていききたいと思っております。またこれらの課題については、車体工業会の他の部会にも共通すると思いますので連携して進めてまいります。

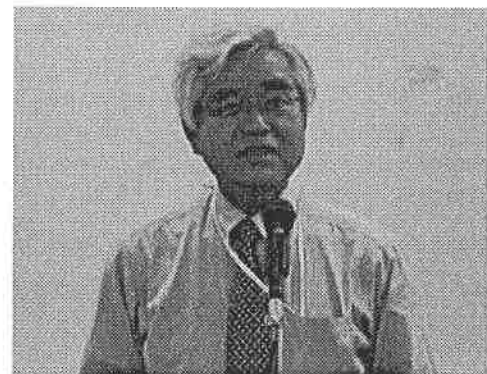
■今後の部会活動

今まで述べたことは業界として推進しないと誰もやってくれません。今までできなかったのはどうして?という前に、未来につけを回さないようにしなければなりません。

わが国にトレーラのシステムが浸透し始めて約半世紀になります。世の中に送り出したトレーラは「質より量」と言われても決して否めないと思います。しかしこれからはトレーラの新しい技術を含め、安全性、メリット等をPRし、運行環境を改善して新たな需要の喚起を促したいと思います。

今、トレーラ部会では安全性向上以外にもさまざまなテーマに積極的に取り組んでいます。最近報道されている「トレーラの日韓中シームレス輸送」も決して逆風と捉えず、安全で高い品質の日本のトレーラをお客様に提供していくことが必要です。そのためにはシステムを構築し、トレーラ業界に元気を取り戻し、次世代の業界の人たちに引き継げるよう微力ながら尽力していきたいと思っています。

環境対応事例発表会を開催



挨拶をする安田委員長

環境委員会（委員長・安田善次・関東自動車工業(株)相談役）は、7月15日、自動車会館内くるまプラザにて環境事例発表会を開催した。

本年度は101名が参加、「環境負荷物質フリー宣言推進活動」に沿った「工場での省エネ」などの実施事例をメインに、会員相互の技術共有化を図った。

安田善次環境委員長の「本発表会が皆様方の活動の起爆剤になることを願う」との挨拶に続き、車体架装メーカーにおける生産現場での取り組み事例の発表があった。

特装車用塗装の鉛フリー化

新明和工業(株)
生産技術統括本部
主任技師
福永 博臣



日本自動車車体工業会（以下、当会）の「環境負荷物質取組基準」に準拠して、当社特装車事業部門においても環境負荷物質削減に向けた取組みを推進している。この中で、特装車で用いる塗装についても、環境負荷物質である鉛の削減に取り組んできたので、この活動内容について紹介する。

1. 従来型塗料

下塗りで用いる電着塗装においては、2003～2004年に鉛フリー化を達成済であるが、完成塗装で用いる黄色系塗料（黄、赤、黄緑等）においては、顔料にクロム酸鉛が配合されており、塗料中に14～19%程度（質量比）含有していた。このため、黄色系塗料には環境負荷物質である鉛と六価クロムを含んでいた。

2. 削減計画

当社特装車事業部門の環境負荷物質削減活動として、鉛フリー塗料の採用を事前検討した結果、下記の障害を伴うことが把握できた。

- a) 隠蔽性の悪化
- b) 営業部門（顧客）対応
- c) 鉛フリーの確認方法

これらの課題について、特装車関連工場での情報の共有化を図りながら、2007年8月から順次解決していった結果、2008年1月から順次切換えを開始し、2008年7月に切換えを完了した。

3. 対策内容

a) 隠蔽性の悪化

実際に黄色系鉛フリー塗料を塗装し、従来型塗料と比較して隠蔽性の悪さを確認した結果、角部において下地の色が目立つことがわかった。



フェンダー

そこで、塗装色に応じた中塗り塗装を施すこととし、中塗り塗装色をいろいろ変更トライアルした結果、白色・ピンク色等が適切であることが判明した。

b) 営業部門（顧客）対応

鉛フリー塗料採用にあたり、色ズレが発生しやすくなることが懸念されたので、営業部門向けに変更案内を配布して社内に周知徹底した。更に、カラーコードおよび塗板を配布し、顧客に説明できる体制を整え、必要に応じて顧客指定色の色見本を提出した。

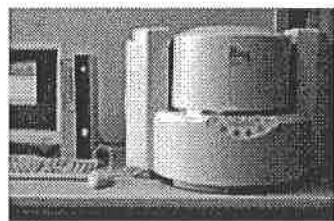
c) 鉛フリーの確認方法

関連取引先に鉛の非含有宣言書を提出していただいた。更に、当社所有の蛍光X線分析装置にて環境負荷物質が非含有であることを確認した。

4. まとめ

当会「環境負荷物質取組基準」に準拠して、塗装についても環境負荷物質を削減することができた。しかし、中塗り工程を増やしており、塗料使用量が増大しており、今後は、最適な膜厚管理による隠蔽性を追及し、塗料使用量の適正化を進めたい。

そして、これからも環境に優しい特装車の生産を通じて、社会の期待と信頼に応えていきたい。



蛍光X線分析装置

環境負荷物質(SOC4)規制への取り組み

日本フルハーフ(株)
開発管理グループ
スタッフ
小澤 正広



日本フルハーフは地球環境に優しい技術を常に追求すると共に、環境保全を十分に意識したトレーラ、バン型ボデー等の生産活動を通じて環境保護に率先して取り組んでいる。

環境負荷物質フリー化に向けた取組みも、車体工業会の自主取組目標を達成した。その過程で材料や部品に含まれる環境負荷物質の有無を確認するために成分分析を行ったので、その方法を紹介する。

1. 分析の考え方

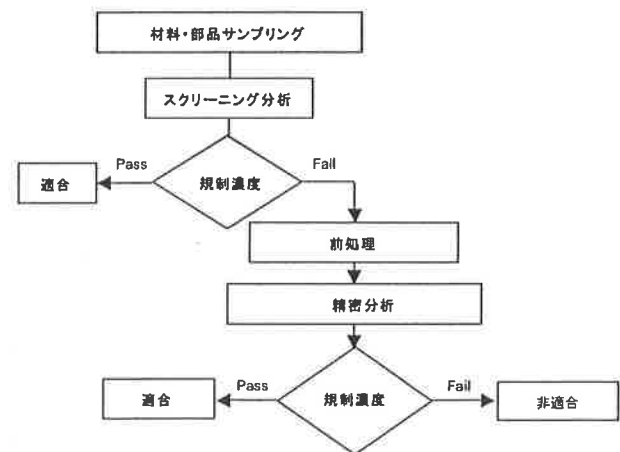
化学物質の含有確認を行う場合、全ての均質物質材料について重量比を確認することで製品全体の化学物質含有確認が可能となる。

例えば亜鉛メッキ鋼板の場合は、均質物質に分けるために、クロメート処理層、亜鉛めっき層の順に研磨し金属材料(鋼板)と分離し、それぞれの均質物質毎に化学物質の含有量確認結果と重量比を基に分析を行う。

2. 分析フロー

ELV 指令には分析フローの規定はない。唯一の公的法と思われる IEC62321 (国際電子標準会議 議規則化学6物質分析法) に従い分析を実施する。

まず環境負荷物質分析フロー(図1)に沿って、材料・部品サンプリングを行い製品を解体、研磨、切削などによる均質な物質への分離を行う。次に蛍光X線分析法等によるスクリーニング(簡易分析)を行い、規制濃度に対しての判定を行い、判定がつかない場合は前処理(機械的・化学的資料調整など)を済ませ、精密分析(誘導結合プラズマ質量分析法・還元気化式原子吸光法)を行う。

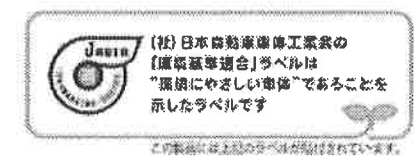


など)を実施して規制濃度に対しての適合判定を行う。

3. 分析での留意点

含有が疑われるリスク部位を中心に確認する。(例：亜鉛メッキのクロメート、塗料) また、前述の分析フローについては六価クロムおよび PBB/PBDE の分析手法が確立されていないので注意が必要。

以上が当社で実施した化学物質分析だが、最後に車体工業会環境アイコンを紹介する。これはトラック等の車体に貼り付けられた環境基準適合ラベルを説明したもので、「車体工業会の自主取組要件を満たした“環境にやさしい車体”であることを示したラベルである」とカタログ等で説明するものである。



すぐに役立つ省エネ活動の紹介

環境委員会工場環境分科会
(三菱ふそうバス製造(株))
生産経営企画室工場技術課課長
庄司 忠



今回の発表は車体工業会環境委員会工場分科会の取組み「すぐに役立つ省エネ活動の紹介」を1. 省エネの基本的な取組み、2. 省エネ診断の取組事例、3. 会員各社の省エネ改善事例としてまとめた。

1. 省エネルギーの基本的な取組み(図1)

省エネの取組みには「維持管理活動」と「低減活動」があり、維持管理活動の省エネ法に基づく「エネルギー管理標準の設定と運用」と低減活動の「会員各社の事例」を紹介する。

図1 省エネ法で求められる管理標準



1-1. 省エネ法で求められる管理標準
省エネおよびエネルギー管理を実施するため管

である。適合性評価の制度は社会からの信頼を得ていることが必須であり、このために、適合性評価を行う機関（適合性評価機関）の能力を公平且つ公正に検証し、評価する認定機関の使命は重要となっている。

公益財団法人日本適合性認定協会（JAB）は、わが国において、第三者適合性評価制度の中核として発展し、「製品に関する規定要求事項（明示されたニーズ又は期待）が満たされていることを実証する適合性評価機関である試験所」を国際規格である ISO/IEC 17025 に基づき認定（試験所認定）を行っている。

現在、試験所認定制度は世界的な広がりを見せ各国の認定機関から認定された試験所が発行する「試験報告書」は相互承認協定（MRA）に基づき、参加加盟国のあらゆる国で流通が可能である。中でも、EU 各国が輸出入に利用する試験所に ISO/IEC 17025 を要求し、自国の認定機関から認定されていることが義務づけられ、製品が自国で試験され合格となった場合、域内のどの国でも流通可能となっている。加えて、シンガポールやアメリカでも法整備されつつある。また、

世界に通用する試験所と環境負荷物質分析の実践

日本環境(株)
ソリューション企画課
課長
山本 太一



1. 概要

1970 年代前半に創業し、以来 40 年間近く工場からの排水・排ガス中のカドミウム、鉛などの分析を実施してきた。近年のグリーン調達動きに合わせて、7 年前より製品中の ELV(SOC)指令や RoHS 指令(ELV の電気・電子版)に対応した分析を、国際基準である ISO/IEC 17025 にて認定を受けた試験所（RoHS 6 物質について国内で初めて取得）で実施しており、毎年 1 万検体を超える試料の分析を行っている。

これらの経験を踏まえて、分析法の概要、分析事例報告（サンプルの準備～報告書の見方）などについて紹介する。

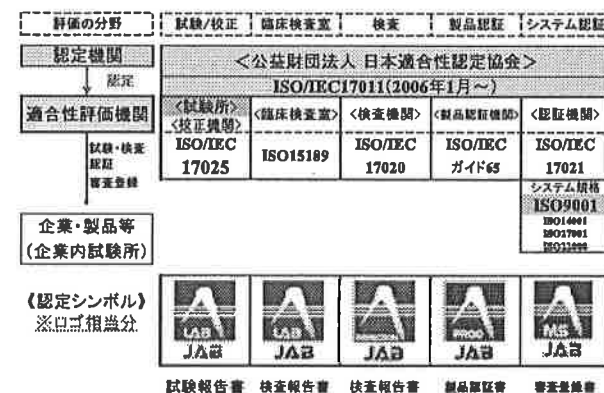
2. 分析方法について

ELV 指令の分析方法は各自動車メーカーにより異なる。ただし、RoHS に対応した公定法（IEC62321 法）に準拠した分析も可能であり、各社指定法または IEC 法のどちらにも対応している。更に、ELV 分析以外にも自動車関連では内装材からのホルムアルデヒドやトルエンなどの VOC 分析も実施している。

論文や学会発表の根拠となった試験結果が試験所認定された試験所で試験した結果であるか否かが重要になってきている。

試験所認定制度は、試験所の能力を証明するだけでなく、試験所の利用者にとっては、能力のある試験所を探す場合に役立つ。試験所認定制度を正しく理解し、利用するのは重要である。

適合性評価機関と認定機関



3. 世界標準のエビデンスの必要性

- (1) 試験所認定 ISO/IEC 17025 取得ラボでの分析結果を提供
- (2) 昨年度の分析補助サービスを含め多くの実績（年間 10000 検体以上）
- (3) スクリーニング～詳細分析まで全て自社ラボで対応するので低価格、短納期を実現
- (4) ご依頼は簡単 5 ステップ！～経験豊富な営業担当及びアシスタントが JABIA 登録フォームの入力についても丁寧にアドバイス～
- (5) EU や現在検討が進んでいる中国のグリーン調達規制の動向についても、メルマガなどで情報提供
- (6) ELV に限らず排水 / 排ガス、騒音 / 振動、土壌 / 自然環境などあらゆる調査についてワンストップサービスを提供

日本にはさまざまな分析機関がある。ELV に関しては、第三者による分析は必須ではないが、分析費用は大量処理により確実に迅速、安価になる。更に、部品のエビデンスはサプライチェーンを通じて完成品に繋がっていく。完成品は日本だけではなく世界に出荷されるため、世界標準の認定を受けている証明書は、その部品の信頼性を高める重要な要素でもある。

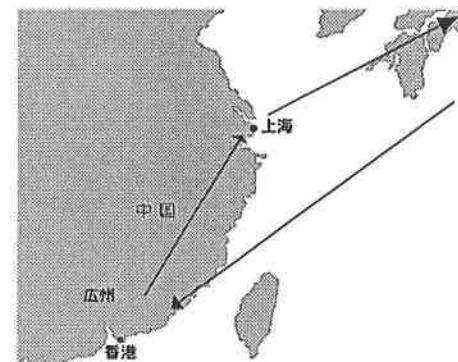
分析依頼の流れ(簡単5ステップ)



バス部会資材委員会 中国を訪問

期間：2010 年 6 月 21 日～ 26 日

【日程および訪問先】



訪問先	
①新会中集集装箱有限公司 (CIMC) [広東省江門市]	床 材
②広州神昌金属製品有限公司 [広東省広州市]	板 金
③LUCKY 佳金金属製品廠 [広東省東莞市]	板 金
④東邦橡塑製品 (昆山) 有限公司 [江蘇省昆山市]	ゴ ム
⑤昆山聯華塑膠五金有限公司 [江蘇省昆山市]	樹 脂
⑥上海愛迪爾精密鑄造有限公司 [上海市]	鑄 造

1. はじめに

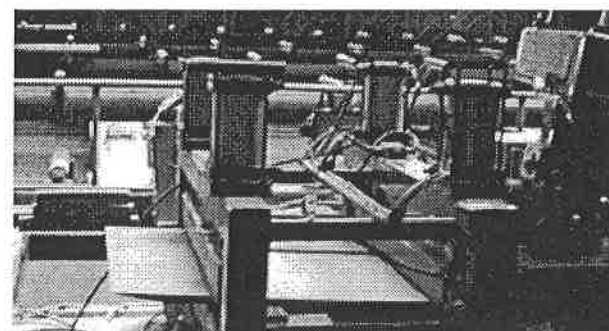
バス部会資材委員会では品質・コストに優位性がある部品メーカーを調査することを目的に中国を訪問、6 社を視察した。中国国内でも会社規模が大きい 2 社について報告する。

2. 視察先

①新会中集集装箱有限公司 (CIMC 中集グループ) : 広東省江門市

新会中集集装箱有限公司はコンテナ生産量が世界 1 位の大手輸送設備グループ CIMC 中集のグループ会社で、主にコンテナ組立とグループ全体で使用するコンテナの床用合板製造を行っている。

同社が架装用資材として新たに開発したものに床材用竹合板がある。アビトン材等の枯渇問題対策として取り組んだものとのことであるが、まだ市場実績がないため、現時点では全合板生産量 30 万㎡中の 10% 程度と少ない状況にある。今後、要望が増えれば竹合板生産の機械化を検討する予定とのことである。



竹合板の製作現場(竹合板ななめ切断装置)

視察結果、耐久性・安定供給度・コスト・為替リスク面をアビトン材等と比較検討する価値はあると考える。



竹合板の仕上作業

②広州神昌金属製品有限公司：広東省広州市

元は神戸製鋼の商社である神鋼商事系中国法人鉄板コイルセンターであったが、現在は米国のライアソン社の資本が 80% となり、ライアソン中国グループ 5 工場のうちの 1 つとなっている。ライアソングループになってからは部品製作部門を強化、売上げ拡大を目指している。訪問した工場では各種部品の板金加工、プレス、溶接などを行っており、現在は同工場内に部品製造と粉体塗装を行う工場を建築中で、年内稼働を目指している。ライアソン中国グループ全体では今後 2 年間で現在ある 5 工場を 15 工場に増やす計画だという。



安全を促す掲示板
無事故記録が記載されている



きれいに整理された工場

3. 所感（資材委員）

今回、架装用資材 / 各種部品製造などのメーカー 6 社を訪問した。生産部品や三次元測定機等を使用した検査工程を見学した結果どの会社も技術・検査レベルは高く、製品品質の良いものが製作されていると感じた。作業環境においてはメーカーごとにまちまちで、例えば敷地内が整然と整理されているメーカーがあれば、精密製造部品メーカーなどは雑然とした印象を受けた。

【参加者】

会社名	部署役職	氏 名
ジェイ・バス(株)	調達部部長	吉田 博明
ジェイ・バス(株)	調達部副部長	石田 寿夫
三菱ふそうバス製造(株)	購買部・購買グループマネージャー	若林 泰秀
(株)日本自動車車体工業会	業務部次長	柿本 喜重

本部だより

■中央技術委員会を開催

中央技術委員会（委員長・田中勝志・極東開発工業(株)会長）では、6月22日に当会会議室において19名が出席し、第1回委員会を開催した。委員会に先立ち、国土交通省審査課担当官を講師に招いて「突入防止装置の装置型式指定手続き説明会」を実施した。

1. 説明会要旨

装置型式指定制度は、サンプル装置の基準適合性を審査するとともに、製作者のISO取得等の品質管理手法を書面確認し、基準に合格したものが国土交通大臣から型式指定を受ける制度である。この結果、新規検査等において、基準への適合性審査が省略されるメリットがある。

2. 中央技術委員会

2010年度中央技術委員会の事業計画に関し、次の項目について進捗状況等の報告をした。

(1) 法規関係の対応

- ・改造自動車取扱解説書の改訂版作成中
- ・技術的規制項目洗い出し/緩和要望とりまとめ(巻込み防止装置の形状、寸法等)
- ・車両法規改正への意見反映と円滑な対応(国内法規動向調査および展開)

(2) 基準化/標準化推進 (JABIA規格)

- ・新規4件、改訂1件

(3) 部品/装置/仕様の共通化推進

- ・新規3件、継続1件

(4) 部会調査研究の横断的推進

- ・調査研究8項目

(5) 会員の技術レベルアップ支援

- ・重大不具合の再発防止策共有活動(リコール情報5件を関係部会に展開)

■中央業務委員会を開催

中央業務委員会（委員長・比企能信・日本フルハーフ(株)社長）では、7月6日、第1回委員会を開催した。2010年度事業計画に沿っての進捗状況等を委員長へ報告、各課題の論議を行った。主な内容は以下のとおり。

1. 「会員間の社員相互交流の仕組み作り」をまずスタートすべく、進捗を分科会で図る。
2. 「リスクマネジメント体制整備の支援」として講演会を開催すること。

■2011年度税制改正要望について

ー中央業務委員会ー
経済産業省が7月末までに意見を募集した題記「2011年度税制改正要望」を車体工業会としてまと

め、提出した。具体的内容は、以下の2項目。

1. 要望名：税法上の中小企業定義の見直し

要望内容：中小企業基本法での中小企業の定義は「資本金3億円以下(製造業)」に引き上げられているが、法人税制上の資本金基準は「1億円以下」のままである。中小企業関連税制の活用拡大のため資本金基準を「1億円以下」から「3億円以下」に引き上げることを要望する。

2. 要望名：中小企業法人税率の特例拡大

要望内容：車体架装業界は、未だに企業経営が非常に厳しい状況が続いているため、中小企業を対象とした法人税率を軽減すること。

- ・年所得800万円超の部分：30%を22%に軽減
- ・年所得800万円以下の部分：18%を10%以下に軽減

なお、本内容とは別に、当会も参加している税制委員会の意見を基に、一般社団法人自動車会議所が各省庁に以下内容を要望した。

1. 「複雑で過重な自動車関係諸税の簡素化・軽減」
自動車ユーザーの負担する自動車関係諸税は9種類におよび、道路特定財源の一般財源化により課税根拠を失った税は、廃止するなど、その簡素化/軽減のための抜本改革を要望。

2. 「環境自動車税の創設には反対」

総務省が提案している「環境自動車税」は、自動車重量税(国税)と自動車税/軽自動車税(地方税)を地方税として一本化しようとするものであるが、課税根拠を失い廃止されるべき自動車重量税の存続を前提としているため、創設には反対。

3. 「地球温暖化対策税の創設には総合的な検証が必要」

■環境委員会を開催

環境委員会（委員長・安田善次・関東自動車工業(株)相談役）では、7月5日に当会会議室にて14名が出席し、第1回環境委員会を開催し、本年度の当会の環境への取組みの進捗確認を行った。

自主行動計画については概ね順調に進んでいるが、今年度の新規取組みである環境対応への参画会員の増大が進んでおらず、対応案について検討を行った。具体的には次のような項目を会員に提供し、参画会員の拡大を図ることとなった。

- ・環境適合事例発表会で、「すぐに役立つ省エネ活動の紹介」を発表し、当会会員がすぐに役立つ環境技術の紹介を実施(7月)

- ・環境改善事例集作成し会員に配布(10月予定)
- ・当会の環境活動PRパンフレットの作成

■商用車架装物リサイクルに関する自主取組みをまとめを完了

環境委員会（委員長・安田善次・関東自動車工業(株)相談役）では、商用車架装物リサイクルシステムの円滑な推進活動に取り組んでおり、昨年度の実績をまとめた。なおこの結果は、自動車工業会と共同で8月6日に開催された産業構造審議会の自動車リサイクルWGと中央環境審議会の自動車リサイクル専門委員会の合同会議に報告した。自主取組みの実績は以下のとおりである。

1. リサイクル設計の推進：

- (1) 当会会員各社にて製品展開拡大中；2009年度は当会会員バン生産の89%（前年比+2%）
- (2) 環境基準適合ラベルの貼付目標達成済み；目標85%を継続
- (3) 易解体性向上、解体マニュアル充実のため解体実験；2009年度バン&トラック解体実施

2. 環境負荷物質の使用削減：鉛、六価クロム、水銀、カドミウムの4物質すべて

目標達成済み；2007年度末から目標達成を継続

3. リサイクル・適正処理の推進：協力事業者制度の維持、継続；2009年度は165事業所（前年比+3）119社（前年比+2）

4. 情報提供、啓発活動の推進：関連事業者との情報交換継続。架装物チラシ・協力事業者制度参加事業者リストの配布継続。

■第207回理事会を開催

第207回理事会を7月15日に当会会議室で開催した。理事会では、「新入会に関する件」、「評議員の変更に関する件」、「一般社団法人へ移行に関する件」を審議した他、2010年度本部・部会事業計画1/4期実績まとめと課題、2010年度上期(4月)内商用車販売状況と会員生産台数について等資料により報告を行った。(詳細については、17頁車体工業会活動報告・第207回理事会参照)



■評議員会を開催

7月27日には評議員会を開催した。諮問内容は公益法人制度改革対応での一般法人化申請に向けた準備であり、具体的には以下の2項目。①新定款案および規定変更案について、②公益目的支出計画について。

評議員会では矢島廣一氏(埼玉自動車工業(株)取締役社長)が議長に選任され、諮問された一般法人化申請準備について「今後、関係者と調整に入る現段階の案として賛成である」との答申を高木会長に報告し、閉会した。

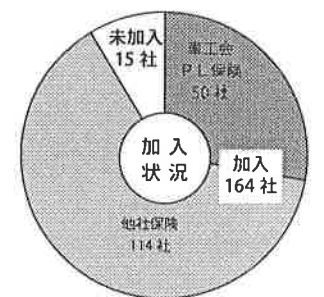
■PL保険会員加入状況について

昨年の消費者庁発足もあり、最近はいろいろなPL事例が課題となっており、当会会員においても、下記のような事故が発生している。当会ではリスク対応の一環としてPL保険の加入拡大を進めているが、今回会員の加入状況を調査した。

回答のあった179社のうち、164社がPL保険に加入しており、内訳は50社が当会のPL保険、114社が他社PL保険であった。未加入は15社と少なく、そのうち「今後加入検討したい」は9社、「業務上不要」は6社であった。

今後は、未回答会社の調査継続や支部地域会員の調査、加入促進を進め、PL保険の加入率アップを図っていく。

なお、当会PL保険は10月が切換え時期のため、8月末に案内パンフレットを送付済みであり継続や新規加入の手続きを開始している。



当会の最近のPL事故事例

発生日時	事故内容	保険金
2009.11.26	車両の架装作業において、インバーター設置上に瑕疵があり酸素供給が出来ず、活魚類に損害を与えた。	273万円
2010.2.10	車両にGPSを設置する作業において不備があり、納車後に車両本体のコンピュータを破損させ走行不能。	80万円
2010.3.27	被保険者において以前に架装した車両が、稼働待機中に火災発生し損害が発生した。	10万円

■人事労務研究会労政合同分科会を開催

当会人事労務研究会では6月11日、(株)日本自動車部品工業会とともに北海道の苫小牧プリンスホテルにて労政合同分科会を開催、会議に先立ち王子製紙(株)苫小牧工場、トヨタ自動車北海道(株)第1工場の2工場を見学した。

王子製紙(株)苫小牧工場は、2010年9月で操業開始から100周年を迎えるが、苫小牧を選んだのは、豊富な「木」「電力」「水」があったためとのことである。

現在は新聞用紙 100 万トン（国内生産で最大規模）、その他（印刷用紙等）20 万トンを生産、原料には古紙 6 割、国内産木材 4 割（うち道内産 2 割）を使用しているとのことであった。

続いて、トヨタ自動車北海道㈱ 第 1 工場を見学した。1991 年に設立され、道路、空港、港のどれもが近く交通の利便がよい場所にあり、約 3,500 名（うち正社員 2,200 名、その他期間従業員）で主に海外向けのオートマチックトランスミッションを製造している。生産工程の見学では、広い工場と整然とした作業に参加者は目をうばわれていた。

見学会終了後、労政合同分科会を開催した。テーマは 2010 年度春季労使交渉振り返り、2010 年度新規卒者および期間従業員の採用計画、昨年度採用実績、2010 年度初任給動向であり、各社の状況報告や課題共有化を実施した。



■自動車産業労政合同会議を開催

当会人事労務研究会は、7月23日、㈱日本自動車工業会会議室にて㈱日本自動車工業会、㈱日本自動車部品工業会とともに自動車産業労政合同会議を開催した。

情報交換テーマは「生産面・雇用面・経費面における現状の各社対応状況」であり、概ね各社とも生産量は回復してきたが、労働派遣法改正の動きもあり、派遣労働者は大幅に減り、期間従業員や社内応援での対応が増加している。経費面では、消耗品等の経費節

減策や出張費削減策について、各社の具体的取組みについて情報交換した。

■自動車産業労務担当役員懇談会を開催

当会人事労務研究会は、8月3日、日本自動車部品工業会第5会議室にて㈱日本自動車工業会、㈱日本自動車部品工業会とともに東京會館浜松町において自動車産業労務担当役員懇談会を開催した。

はじめに「JMA 2010 年経営革命提言 潜在能力の組織的発揮～「働く人の喜び」を生み出す経営～について」として㈱日本自動車能率協会 経営研究主幹の杉村守孝氏が講演された。

講演では、「潜在能力とは、本来できるはずの能力のうちまだ現実に発揮されていない能力のことであり、人の潜在能力は多様である。人の能力は事態に直面することでわき上がり、社員一人ひとりの高い意欲が潜在能力を引き出し、社内により循環が生まれ、企業全体の活力が高まる」と話された。講演後、事務局から三工業会活動状況の報告をした。

■第42回東京モーターショー出展申し込み開始

第 42 回東京モーターショーが 2011 年 12 月 3 日（土）～ 11 日（日）の 9 日間、東京ビッグサイトで開催することが決定しているが、9 月 10 日に出版説明会を実施し 11 月 12 日締め切りで出展申し込みを開始した。出展の規程等は既に関係会員へ展開済みだが、会員会社に加え当会としても出展を計画している。

今回は自動車産業として環境・安全・通信など次世代技術のプレゼンス、またクルマ・バイクの夢、楽しさ、素晴らしさを一般消費者やユーザーに伝える事を目的としている。

開催期間は前回比 3 日間短縮、会場は千葉幕張から東京ビッグサイトに変更し、利便性向上により海外関係者の来場、また会社帰りに気軽に行ける等来場者数の増加を期待している。

部会だより

特装部会

■昭和飛行機工業㈱の工場見学会を開催

粉粒体運搬車分科会（分科会主査・内野秀治・極東開発工業㈱名古屋工場技術部部長）では、6 月 23 日、13 人が出席し、昭和飛行機工業㈱の工場見学会および技術・業務合同分科会を開催した。

工場見学は、当分科会の本年度の事業計画の一環として行われたもので、今回は昭和飛行機工業㈱の工場見学を行い、主に、タンク車、給油車、バルク車の組立工程、架装工程を見学した。また、コネクタやパンタフ

ラフ等の物理的な接触なしで、移動体や回転体に電力を供給する非接触給電システムの見学に出席者の関心が高かった。特に、当システムによる電動マイクロバスに試乗した際、走行時の静かさに全員が驚いていた。

その後の粉粒体運搬車合同分科会では、昭和飛行機工業㈱の会議室を借用して、技術・業務合同分科会を開催した。主な議題は、次のとおり。

- ・2010 年度の本部および特装部事業計画推進状況の報告
- ・ポスト新長期排ガス適合車の車両重量増加／架装性等の検討

■特装車メンテナンスニュース（テールゲートリフタ保守）発行

サービス委員会（委員長・行安健一・新明和工業㈱）では、メンテナンスニュース NO.25（テールゲートリフタ保守）を発行した。

本メンテナンスニュースは、垂直式テールゲートリフタの定期的な点検と整備を実施することにより、使用上のトラブルを未然に防止することを目的として発行。具体的には、昇降ワイヤの折れ、素材切れ、直径の減少、著しい形くずれ、腐食が発生しているものを使い続けると大変危険であること。また、定期点検と定期交換部品のチェックポイントなどを PR している。

当会ホームページの新着情報に掲載中
<http://www.jabia.or.jp/use/index.php>



特種部会

■業務・技術合同委員会／座席強度法規対応 WG を開催

特種部会（部会長・古庄忠信・㈱イズミ車体製作所社長）では、6 月 17 日に本年度第 1 回の業務・技術合同委員会を開催、事業計画各項目の進捗を行った。本年度の課題である「2012 年度からの座席強度法規の対応」を進捗させるため、座席強度法規対応 WG を発足させることを合わせて決定した。その後、座席強度法規対応 WG を立ち上げ、第 1 回会議を 7 月 20 日、第 2 回会議を 8 月 6 日に行い、国土交通省への対応要望、今後の対応日程を決めた。

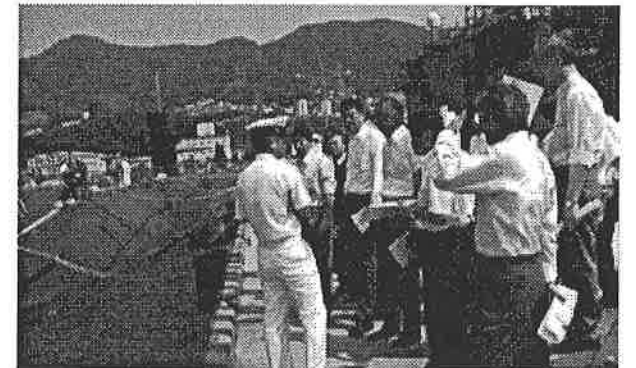
■海上自衛隊呉地方総監部見学会を実施

特種部会（部会長・古庄忠信・㈱イズミ車体製作所社長）では、7 月 30 日、部会員 28 名が参加し、異業種見学会として広島県呉市にある海上自衛隊呉地方総監部の見学を実施した。

当日は、日頃、立ち入ることができない潜水艦／護衛艦の接岸岸壁で、現役の潜水艦「ふゆしお」内の各種装備の見学や潜望鏡の操作等、副艦長より詳細で丁寧な説明を受けた。参加した全ての部会員が初めてのことであり、大変貴重な経験であった。

また、潜水艦乗員になるに当たっての心構えや実際の勤務状況等を聞き、潜水艦の「日本の平和と安全を確

保するための任務」や、海上自衛隊の任務内容が理解できた見学会であった。



トラック部会

■第 2 回部会会議を開催

トラック部会（部会長・堀尾浩二・不二自動車工業㈱社長）では、8 月 30 日に 11 社 12 名が出席し、本年度第 2 回部会会議を開催した。

はじめに、新入会員の㈱岡山溶接所、専務取締役 頼定 修 氏の紹介を行った。

会議は、2010 年度事業計画の進捗状況報告が行われ、次回に向けて、委員会毎に事業計画を進捗することが確認された。

1. 技術委員会
 - ・フェリー輸送のトラック固定用フックの強度調査と、推奨仕様の検討
 - ・床および根太寸法の標準化
 - ・トラックのフル解体調査
2. 業務委員会
 - ・会員カバー率向上活動
3. PR 委員会
 - ・トラック架装業界の重要性のアピール

バン部会

■第 2 回部会会議を開催

バン部会（部会長・川本豊・日本フルハーブ㈱常務取締役）では、8 月 23 日に 10 社 10 名が出席し、本年度第 2 回の部会会議を開催した。

はじめに、本年 9 月に告示を予定している、省エネ冷凍車の普及支援について内容説明を行った。

会議は、2010 年度事業計画の進捗状況報告行われ、次回に向けて、委員会毎に事業計画を進捗することが確認された。

1. 技術委員会
 - ・「思いがけずクレーム」提出状況と、対応基準の進捗状況報告
 - ・シャシとボデーのハーネス締結の進捗状況報告

- ・装置型式指定（申請手引書の作成／発行）の進捗状況報告
- 2. 業務委員会
 - ・バン業界の知名度向上につながる広報活動の検討
 - ・会員カバー率向上活動の検討

トレーラ部会

■トレーラ ROC（横転抑制装置）の公開実験を開催

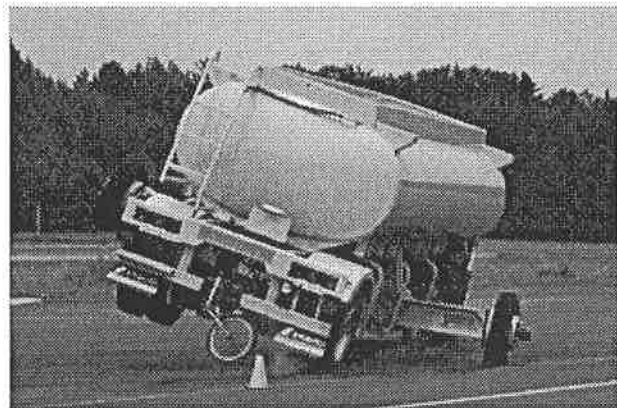
6月10日、トレーラ部会（部会長・西川柳一郎・日本トレクス(株)社長）では栃木県那須塩原市にあるボッシュ塩原試験場において、当会主催でトレーラ ROC 有効性を確認する公開実験を開催した。

当日はマスコミ関係者を含む 20 社 49 名が参加、公開試験は車両総重量が 28 トンの 2 軸平床トレーラと車両総重量が 20.2 トンの 1 軸タンクトレーラの 2 台を使用して、車線変更を行うダブルレーンチェンジと、半円旋回を行う J ターンが行われた。



車両準備状況

ダブルレーンチェンジでは、ROC なしの場合、タンクトレーラが進入速度 47km/h、平床トレーラが 65km/h でそれぞれ車線変更を行う場合、内輪側のタイヤを大きく浮上させたが、ROC ありの場合は、内側のタイヤが浮くものの外輪側のタイヤにブレーキがかけられ、それ以上の浮き上がることなく挙動を立て直していた。J ターンの場合も同様であった。



右に傾くトレーラ(ROCなし)

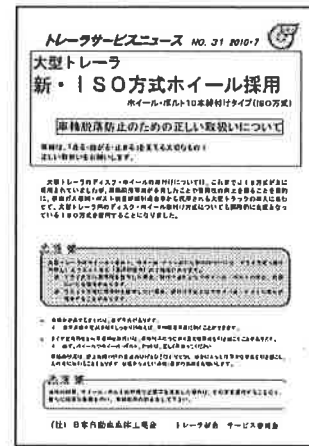
参加者からは「ROC オン・オフの差を自分の目で確認できたので、ROC の有効性を自信を持ってユーザーに説明できる」との声があった。

トレーラ部会では法制化を前に、メーカー各社で生産する全ての車種に ROC を装備することを進めているが、今回、公開試験を行ったことで、ROC 装置の重要性を強く訴えることができた。またこの試験の様子を収録した DVD を制作、活用することでユーザー団体等に配布し、ROC 装置の普及を図っていく。

■「トレーラサービスニュースNo.31」発行

トレーラ部会各社が、大型トレーラのディスク・ホイール取付方式について国際的に主流となっている ISO 方式の採用に伴い、トレーラ部会サービス委員会（委員長・曾我善規・日本フルハーフ(株)サービス部長）では、「新・ISO 方式ホイール採用」に関する正しい取り扱い方法と注意点をまとめたトレーラサービスニュースを発行した。

8 月よりトレーラ部会員より使用者、サービス工場に配布説明を行っており、当会ホームページからも閲覧が可能である。この内容は(株)日本自動車整備振興会連合会発行の技術情報 11 月号にも掲載予定。



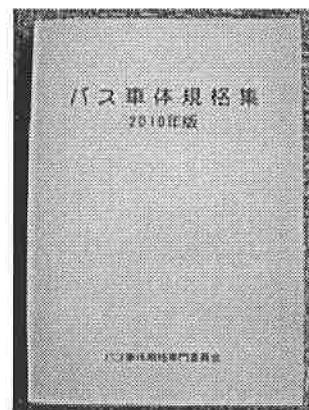
バス部会

■「バス車体規格集」2010 年度版発行

(株)日本バス協会、(株)日本自動車工業会と当会ではこのたび「バス車体規格集」を約 6 年ぶりに改訂、8 月に改訂版を発行した。

この規格集は「バス車体専門委員会」がバスの車体構造・部品および表示等の規格化／標準化を推進し生産性と安全性を図るために作成した規格集で、2010 年度版にはラッシュ対応型のノンステップバス仕様や、シートベルト着用表示銘板の新設等、61 件の規格見直しを行った。当会ホームページで販売受け付けしているので、ご活用いただきたい。

<http://www.jabia.or.jp/use/book/index.html>



支部だより

関東支部

■不正改造車排除運動を実施

関東支部（支部長・高橋充・富士重工業(株)専務執行役員）では、6 月の不正改造車を排除する運動の強化月間中に、関東運輸局からの通達に基づき、ポスター、チラシ等のグッズを支部会員に配布して、本運動の主旨を周知徹底した。また、各都県会において、運輸局と自動車検査法人の担当官による研修会および会員事業場の視察（パトロール）を実施した。研修会参加者の支部合計は 79 社 105 名であり、事業場視察数は 6 社である。

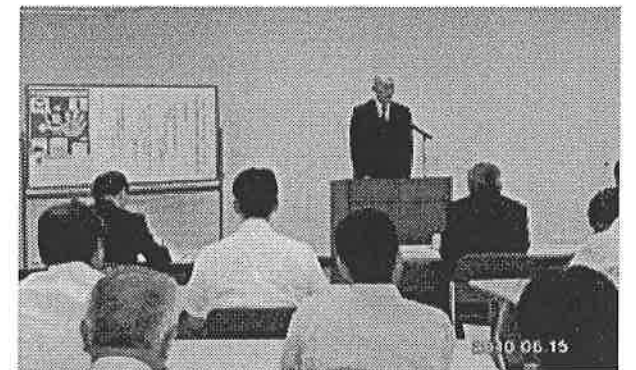
中部支部

■不正改造車排除研修会を実施

中部支部（支部長・石谷清和・(株)東海特装車社長）では 6 月の不正改造車排除強化月間活動の一環とし

て、6 月 15 日に中部運輸局、自動車販売店協会、会員 24 名が参加し、不正改造車排除に向けた研修会を実施した。

具体的な不正改造事例を確認しながら、不正改造には絶対に関与しないことや、従業員の通勤車両に不正な改造がないことも確認していくなど、全社・支部を挙げて不正改造を排除していくことを誓い合った。



官公庁だより

■「保安基準等の一部改正」について

—国土交通省—

国土交通省は、8 月 19 日付けで国連の相互認証協定の改訂を受けて、保安基準等の一部を次のとおり改正した。

主な改正概要は次のとおり。

1. 方向指示器

適用の簡素化を図るため、シングルランプ（光源が 1 つのランプ）の最大光度と複数光源のランプ全体の最大光度を分けて規定しているものを統合し、基準値を複数光源のランプに合わせる。

（適用時期）2010 年 8 月 19 日（型式指定車等の新規検査時のみに適用）

2. 車幅灯、尾灯、制動灯、補助制動灯、前部上側端灯および後部上側端灯制動装置

適用の簡素化を図るため、シングルランプの最大光度と複数光源のランプ全体の最大光度を分けて規定しているものを統合し、基準値を複数光源のランプに合わせる。

（適用時期）2010 年 8 月 19 日（型式指定車等の新規検査時のみに適用）

3. 前照灯

耐熱試験の電圧は、光源（電球式、放電灯式または LED モジュール式）毎に異なっているが、これを全ての光源の電圧について 13.2V 等または製造者等の定める電圧に統一する。

（適用時期）2010 年 8 月 19 日（型式指定車等の新規検査時のみに適用）

4. 灯火器および反射器並びに指示装置の取付装置
反射器の取付高さについて、900mm 以下に取り付けることとなっているが、他のランプとの集合式の場合は 1200mm 以下とすることができる。

（適用時期）2010 年 8 月 19 日（型式指定車等の新規検査時のみに適用）

詳しくは以下を参照。

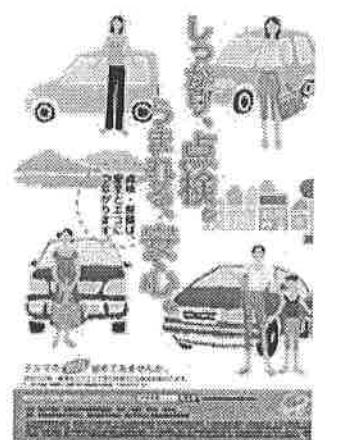
<http://www.mlit.go.jp/report/press/>

[jidousha07_hh_000062.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/jidousha07_hh_000062.html)

■自動車点検整備推進運動の実施について

—国土交通省—

国土交通省は点検・整備推進の一環として、9 月 1 日～10 月 31 日までの 2 カ月間を「自動車点検整備推進月間」として、点検・整備の重要性を自動車ユーザーに対して周知を図ることとしている。今年度は「エコ整備の積極的な啓発」を重点項目の 1 つに掲げ、点検・整備による CO₂



削減効果に向けた積極的な取組みも展開する。

この運動は、自動車点検整備推進協議会30団体、「大型車の車輪脱落事故防止対策に係る啓発活動連絡会」14団体で構成され、内閣府、警察庁、環境省の後援並びに、自動車検査独立行政法人、軽自動車検査協会、独立行政法人自動車事故対策機構の協力のもと全国的に展開される。

本運動は「不正改造車を排除する運動」、「ディーゼルクリーン・キャンペーン」と連携を図りつつ、自動車ユーザー、自動車運送事業者に適切な点検・整備の必要性を理解していただくためのものである。

1. 重点項目

- (1) 点検・整備の必要性の啓発
- (2) 大型自動車に関する適切な点検・整備の方法についての啓発
- (3) エコ整備（点検・整備によるCO₂削減効果）の積極的な啓発

2. 重点実施方法

- (1) 自動車点検・整備を推進するためのイベント
- (2) 総合的な広報・啓発活動の実施
- (3) 重点点検の実施
- (4) マイカー点検教室、講習等の開催
- (5) 出前講座の実施
- (6) 黒煙の排出量の多い自動車ユーザーへの点検・整備の啓発

当会においても、点検整備の確実な実施は大きな課題であり、パンフレット配布も含め広く周知を図っていく。

■2010年度中小企業施策利用ガイドブックについて

中小企業の方が中小企業施策を利用になる際の手引書となるよう、施策の概要を簡単に紹介している。各種ある支援策のうち、自身（各企業）が活用したい施策を簡単にさがすことができるよう、施策利用者の目的に合わせたインデックスを設けている。PDFのダウンロードが可能なのでご活用いただきたい。詳細は以下を参照。

中小企業庁ホームページ：「2010年度中小企業庁施策利用ガイドブック」

http://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/g_book/index.html

—経済産業省中小企業庁—



■雇用調整助成金および中小企業緊急雇用安定助成金ガイドブックについて

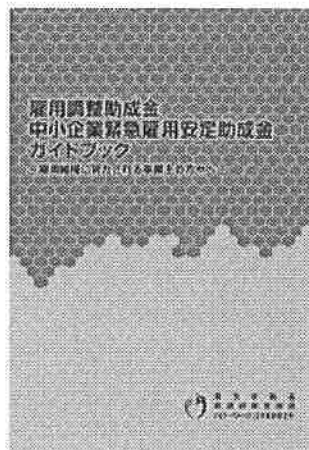
—経済産業省中小企業庁—

雇用調整助成金について、2010年8月1日以後、雇用保険基本手当日額の1人1日あたりの最高額が変更（毎月勤労統計の平均定期給与額の上昇または低下した比率に応じて、毎年自動的に変更）されたことに伴い、雇用調整助成金および中小企業緊急雇用安定助成金の1人1日あたりの上限額は、判定基礎期間の初日が2010年8月1日以後のものより、7,685円を7,505円に変更された。

また、中小企業緊急雇用安定助成金ガイドブックに雇用保険法に基づく雇用調整助成金および中小企業緊急雇用安定助成金の申請方法等を取りまとめた。様式、記載方法、注意点については、以下を参照。

中小企業庁ホームページ：「雇用調整助成金および中小企業緊急雇用安定助成金ガイドブック」

<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/josei/kyufukin/a05-1.html>



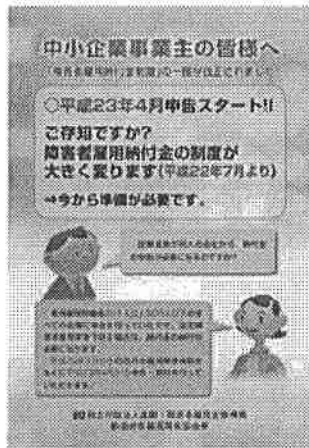
■障害者雇用率制度および障害者雇用納付金制度の改正について

—厚生労働省—

2008年12月に「障害者の雇用の促進等に関する法律」の一部が改正され、「障害者雇用率制度および障害者雇用納付金制度」について次の3項目が2010年7月1日から施行された。

1. 変更内容

- (1) 対象事業主の範囲が拡大
 - ・常用雇用している労働者数が301人以上の事業主に加え、常用雇用している労働者数が200人を超え300人以下の全ての事業主に障害者雇用納付金の申告を行ってもらう。
 - ・参考：常用雇用労働者101人以上の事業主も対象（2015年4月～）
- (2) 短時間労働者も対象
 - ・週20時間以上30時間未満の短時間労働者も



含めて納付金の申告等を行ってもらう。

(3) 除外率設定業種の除外率をそれぞれ10%ポイント引下げ

2. 申告/申請期限

- ・2011年4月1日から5月16日まで
- 本内容についての詳細は、以下を参照。
- ・厚生労働省ホームページ：改正障害者雇用促進法の施行
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyou/shougaisa04/index.html>

障害者雇用促進法が改正されました

—事業主のみならず（パンフレット）—

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyou/shougaisa04/dl/kaisei03.pdf>

- ・独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構ホームページ：2010年7月「改正障害者納付金制度」スタート
http://www.jeed.or.jp/download/kaisei_noufu_pamph.pdf

◆経済産業省人事異動

2010年7月30日

製造産業局長

鈴木 正徳 氏

（前 産業技術環境局長）

前任の平工泰文氏は

退官されました。



◆国土交通省人事異動

2010年8月10日

自動車交通局技術安全部長

木場 宣行 氏

（前 東北運輸局長）

前任の内藤政彦氏は、軽自動車検査協会理事に就任されました。



会 員 情 報

■入会

・正会員

(株)岡山熔接所（トラック部会・7月15日付）

代表取締役社長 頼定 照彦

〒700-0962 岡山県岡山市北区長瀬表町3-19-10

TEL：086-241-9051 FAX：086-244-5070

主要製品 平ボデー、リアバンパ、リアフェンダー、

アルミバンパ

■社名変更

(株)川島織物セルコン→TB カワシマ(株)

（2010年7月1日より）

■会社代表者変更

・正会員

(株)東海特装車

取締役社長

石谷 清和

セントラル自動車(株) 取締役社長 葛原 徹

トヨタ車体(株) 取締役社長 網岡 卓二

トヨタテクノクラフト(株) 代表取締役社長 川瀬 正伸

日本車輛製造(株) 代表取締役 中川 彰

古河ユニック(株) 代表取締役社長 市村 謙二

東京特殊車体(株) 代表取締役社長 八木 英樹

・準会員

タキロン(株) 代表取締役社長 兵頭 克盛

三池工業(株) 代表取締役社長 橋本 武始

大日本塗料(株) 代表取締役社長 岩浅壽二郎

■退会

・正会員

デベロップメイド(株) 8月31日付

・準会員

(株)エービーシー商会 6月30日付

車体工業会活動報告

第207回理事会議題

1. 日時 2010年7月15日
2. 場所 当会会議室
3. 審議事項
第1号議案 新入会員に関する件
第2号議案 評議員の変更に関する件
第3号議案 一般社団法人への移行に関する件
報告事項
1)事業計画1/4期進捗状況報告
2)2010年度1/4期収支報告
3)最近の商用車販売、生産状況について
4)平成22年度中小企業庁施策の概要
5)最近の官公庁情報
6)その他報告事項

月度活動状況

◆6月◆

- 2日 特装部会・ダンプ車業務・技術合同分科会 当会
3日 トレーラ部会・品質タスクフォース "
4日 トレーラ部会・サービス委員会 "
トラック部会・車輛運搬車分科会 "
7日 特装部会・サービス委員会 "
9日 改造車取扱検討委員会 "
10日 特装部会・技術委員会 "
11日 人事労務研究会・労務合同分科会 北海道
14日 特装部会・じん芥車技術分科会 当会
15日 トラック部会・技術委員会 "
バス部会・塗装デザイン研究会 "
16日 バス部会・ワンマン機器小委員会 石川
17日 特種部会・技術業務合同委員会 当会
18日 バン部会・技術委員会 "
21日 中央業務委員会・コンプライアンス分科会 "
22日 中央技術委員会 "
23日 中央業務委員会・法制税制対応分科会 "
特装部会・粉粒体運搬車分科会 東京
24日 バス部会・技術委員会 茨城

◆7月◆

- 1日 相談役会 当会
2日 トレーラ部会 "
5日 特装部会・サービス委員会 "
環境委員会 "

- 5日 環境委員会・工場環境分科会 当会
6日 特装部会・清掃車小委員会 "
中央業務委員会 "
7日 バス部会・ワンマン機器小委員会 "
8日 トレーラ部会・サービス委員会 "
9日 テールゲートリフト技術委員会 "
バス部会・技術委員会 "
13日 トレーラ部会・技術委員会 "
15日 常任委員会 "
第207回理事会 "
環境対応事例発表会 東京
16日 特装部会・ローリ合同分科会 当会
環境委員会・第2回リサイクル分科会 "
20日 特種部会・座席強度対応WG "
22日 トレーラ部会・業務委員会 "
23日 バス部会・資材委員会 "
環境委員会・架装物リサイクル分科会 "
人事労務研究会・自動車産業労務合同会議 東京
27日 評議会 当会
29日 トラック部会・PR委員会 "
30日 バス部会・塗装デザイン研究会 "
特種部会・見学会 広島

◆8月◆

- 2日 特装部会・サービス委員会 当会
トレーラ部会・品質タスクフォース "
3日 人事労務研究会・労務担当役員懇談会 東京
4日 環境委員会・架装物リサイクル分科会 当会
5日 トレーラ部会・技術委員会 "
中央業務委員会・法制税制対応分科会 "
6日 バス部会・技術委員会 "
特種部会・座席強度対応WG "
18日 トラック部会・技術委員会 "
19日 特装部会・ダンプ車技術・業務合同分科会 "
20日 トレーラ部会・サービス委員会 "
バン部会・技術委員会 "
欧州視察説明会 東京
23日 バン部会 当会
トレーラ部会・品質タスクフォース "
24日 トレーラ部会・業務委員会 "
25日 改造車取扱検討委員会 "
26日 バス部会・ワンマン機器小委員会 "
27日 広報委員会 "
30日 トラック部会 "
31日 トレーラ部会・委員会役員会 "



2010. 秋



多目的な視点を心がけています。
クラリオン(株) AV/NAVI 商品企画部 **山崎結生**さん

Q1 どんなお仕事ですか。
カーナビ／カーオーディオの商品企画部門で、主に国内向けのカーナビを担当しています。お客様は、市販の量販店、カーメーカーなどさまざまであるため、多角的な視点を求められる仕事です。
Q2 仕事で楽しいときは
「これは、お客様に喜んでもらえる！」と思える企画ができた時。小さなことであっても、設計・企画の考えが一致し、一丸となって開発が進められたとき等々、いっぱいあります。

Q3 これまでの仕事の中で印象に残っている出来事は？
入社して間もないある日。自分の仕事に対し、十分な対応をしていない私の様子を見ていた他部門の部長から、「ちゃんと仕事しなさい！」と怒られたこと。当時は悔しくて悔しくて…。しかし、努力をすればできるとわかった上での注意だと知り、その方の優しさと思いやりに感動しました。
Q4 御社のPRをしてください！
たくさんの困難を乗り越え、70年の歴史を刻んでいる素晴らしい企業です！そして、人も製品も、“誠実さ”と“遊び心”を兼ね備えた、魅力あふれる会社です♪

海外との橋渡し役です。

日産車体(株) プロジェクト統括部 **インタラチット ヌンヌット**さん

Q1 どんなお仕事ですか。
日産 NV200（バネット）の海外プロジェクト統括業務をしています。具体的には、担当プロジェクトの窓口として海外拠点と連携し、日本で開発した車を海外でも同様の品質でスムーズな開発・生産が出来るように指示したり、海外拠点からの質問や提案に対し当社のエンジニアの見解をまとめたりしています。
Q2 仕事で楽しいときは
当社と海外拠点エンジニアとの橋渡し役としてコミュニケーションを図り、課題解決出来た時が一番楽しいです。
もう一つは当社のエンジニアの専門知識や現地から得られる貴重なお客様要望など私にとっては全てが新鮮であり、それらの情報を理解出来た時はすごく満足です。

Q3 これまでの仕事の中で印象に残っている出来事は？
担当する NV200 日本生産の社内新車発表会で司会役を勤めたことです。この車の開発に携わった人たちの苦労や達成感を社員や近隣の販社のお客様等出席された皆様に伝えることが出来ました。
Q4 御社のPRをしてください！
当社は日産グループの中で商用車、ワゴン車、小型乗用車、特装車等多様な車の開発、生産を分担しています。特に商用車については世界中のお客様要望に柔軟に対応し、高品質な車を提供することで信頼を得ています。





NET WORK

会員会社紹介 Vol.61

卓越した技術と豊かな経験で ユーザーのニーズに応える

新幹線広島駅からJR呉線に乗り換え10分、矢野駅に到着する。更に車に乗ること15分ほど、熊野町へと向かう。熊野町は筆の有名な生産地で、観光スポットの「筆の里工房」を横目に坂道を登ると、アルサイド工業(株)が見えた。

取材/㈱日本自動車車体工業会 事務局次長 瓜谷優一

特 徴 沿 革

アルサイド工業(株)の前身は、1972年に広島県呉市で創業されたが、1973年に法人化し現在の株式会社となった。社名を「アルサイド」としたのは、アルミを扱うことから命名したという。

当時、他のボデーメーカーでは車1台の架装を行うのに2~3名で全ての作業を行うことが多かったが、アルサイド工業では、骨格制作、アルミ板コールド加工、取付、外板張り(穴あけリベット打ち)に各1名を配置、3名での分担制にすることで1日2~3台の架装を可能とした。穴あけ加工などは自社で機械工具を考案、手動式より数倍の速さで作業をこなしていたという。当時としては画期的な流れ作業であり、

広島県のみならず、山口県、福岡県、佐賀県等からの受注もこなしていた。

1970年代後半にはバンボデーのキット販売を成功させる。このキット販売の開発に当たっては、それまで使用していた1.2ミリの外板アルミ板を薄くする必要があった。更に原価低減が図れ、外観品質も向上した外板アルミ板ができないか、当時のアルミメーカーと検討を重ねた。その結果、表面処理(クリア仕上げ)を施すことで防錆効果もあり、0.8ミリまで薄くすることができ、採用に踏み切った。

このアルミ板を使用して自社オリジナルの骨格アルミ型材を開発、お客様にも好評で現在に繋がる製品となった。

アルサイド工業株式会社 ALSIDE

DATA

- 本社
〒731-4215
広島県安芸郡熊野町
1368-19
TEL 082-854-6101
FAX 082-854-8544
- 資本金 1千万円
- 従業員数 29名
- 事業所規模
本社 敷地 約4,300㎡
工場 敷地 約1,800㎡
- 車体工業会加入
1996年(トラック部会)



代表取締役
佐々木 政男

現在では平ボデー、ウイング、各種バン等のトラックボデー製造の他、各種テールゲート取付やアルミバンキット、アルミブロックキット等の製造、販売なども行っている。これからもお客様の要望に素早く対応できる商品づくりに力を注ぎ、高品質な製品を提供していきたいという。



製 品

—御社の代表的な製品などについてお聞かせください

佐々木社長 平ボデー架装と特殊アルミバンが主な製品で、特にアルミバンボデーは自社オリジナル製品で他社にはないお客様のニーズにあった製品づくりが好評です。

—その他の車両にはどんなこだわりがありますか?

最近では、車載式X線搭載車両に力を入れています。空港や港で使用されるもので白カラーのアルミフラット断熱ボデーを使用しています。荷物を運ぶコンベア等の装置も自社で製作、取付けを行っています。これまでに30台ほど製作し、納車しております。

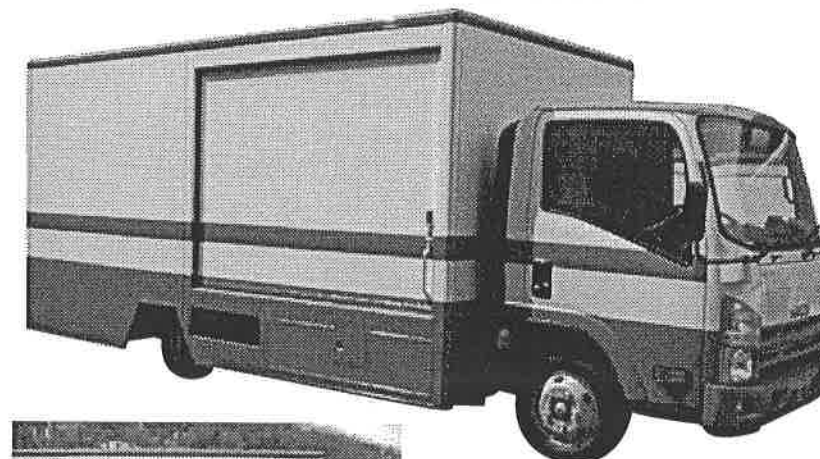
NET WORK

—今後の抱負、方向性などはいかがですか?

昨年3月に代表就任して1年が過ぎました。厳しい状況の中でディーラーの再編が進む中、当社ではその変化に迅速に対応して、「どんな困難な仕事もわが社に」をモットーにお客様から必要とされる企業を目指し、この不況を乗り越えていきたいと思っています。

車載式X線車

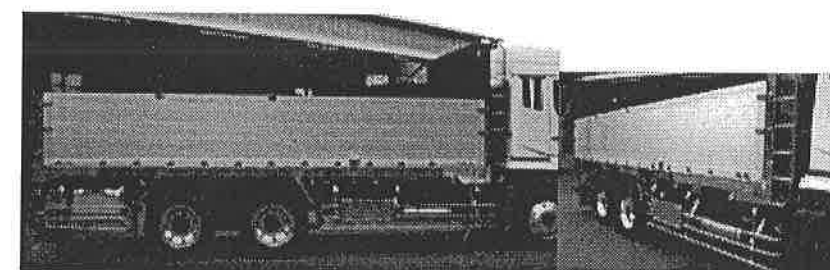
車両の中にベルトコンベアとX線装置を搭載している



移動図書館車



オールステンレス仕様 平ボデー



人

—従業員の方の特徴は?

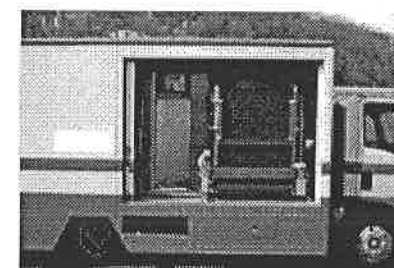
ベテランの従業員が多く、お客様が何を望んでいるかを長年の経験から先取りできる能力があり、製品を造り上げる上で、大いに発揮されています。また同業他社の製品を参考にしながら、常に技術を磨いています。

—人材の育成についてはどのようにお考えですか?

当社でも技術の継承は大きな課

題です。若手社員への技術指導を進め、技術を継承することで、会社の更なる発展につながると思うので新入社員の採用も急務と考えています。

社員には「和をもって事をなす」と伝え、チームワークで業績を伸ばすことと、会社人であるとともに社会人であることを共有していきたいと思っています。



工場には製作中の大型ボデーがあった



細かい作業をていねいに進めていく

㈱交通電業社

LED 式から液晶式へ～見やすく使いやすい表示器の開発

㈱交通電業社は、1947 年に関西の戦災市内電車の修復を行うために個人創業された。1951 年に大阪市交通局が全国に先駆けてワンマンバスを採用することになると、車載用電気製品を納入、バス用電気製品の製造も行うようになった。現在では電車・バスの両方の製品を扱っている。

1981 年に販売した LED 式停留所名表示器は、日本初となる 3φ 砲弾型 LED ランプを使用し、漢字 1 文字を 16 × 16 個で構成、漢字 6 文字までは固定表示、6 文字を超える場合はスクロールさせていた。それまでの表示器はプラズマ表示が主で、ネオン管を使用していたが、電球の寿命が短いのが問題であり、LED に変えることで問題を解決、大阪市バスの新車に採用された。

最近では、液晶式運賃表示器 & 広告表示器を開発・販売を始めた。1 号機を製作した時には、電源を入れてから画面を表示するまでに約 40 秒かかり、何も映らない画面は、運転手にとっては長い時間となる。この起動時間を短縮できないかと思案を繰り返し、約 3 秒で起動という速さを実現、業界初の製品を造り上げた。またアイドリングストップによる電圧変化にも強く、画面表示もレイアウトが自由に変更できる。お客様からも、起動の早さ、液晶画面の見やすさなどが好評だという。

菰口伸二 (1990 年入社・左)
代表取締役社長
1991 年、取締役就任 (財務担当)、
常務取締役、取締役副社長を経て
2010 年、代表取締役社長就任、現在
に至る。

染川政治 (1987 年入社・右)
常務取締役
2000 年取締役開発部長就任、2007
年常務取締役 (技術統括) 就任、現在
に至る。



高性能 LCD パネルを採用、高輝度、広視野角を実現。
表示画面の編集は市販のパソコン上で簡単に作成できる。



工場ではヨーロッパ、インド、アメリカなど、
使用される言語に合わせ表示器が製作されて
いる

日本国内のみならず、海外でも㈱交通電業社の製品は高く評価され、ヨーロッパ、インド、アメリカなどからも注文が入る。

「できない」と言わず「なんとかする」、この気持ちでお客様の信頼を得、新しい製品へとつなげてきた。これからもユーザーニーズにきめ細かく応えることをモットーに製品を産み出したいという。

□㈱交通電業社 (代表取締役社長 菰口伸二)

小回りの効いた開発体制と蓄積されたノウハウで、お客様の要望に応えし、「目立たずとも社会に貢献できる企業」を目指している。

本社

〒557-0021 大阪府大阪市西成区北開 1-1-25

TEL: 06-6568-2331 FAX: 06-6567-2334

<http://www.parasign.co.jp>

私たち資材部会は、部会会員を専門分野ごとにグループ分けを行い、3分科会13グループからなる「ビジネスネットワーク」を設置しております。この「ビジネスネットワーク」は、会員のより強い連携と結束を実現し、架装メーカーに対するより積極的な協力体制が展開されています。

「VOICE」では、シリーズで部会会員会社の製品および技術が開発されるまでの経緯を紹介していきます。

㈱星光商会

マーキングフィルム～時代に沿った商品開発

設立当初、車体にロゴやマークを入れる手段は直接車に字を書くか、吹付文字ぐらいしかなかった。スコッチライト反射シートなどに印刷を施し、切り抜きをして車体に張りつけるマーキングフィルムの製作は、㈱星光商会がその先駆けであった。

優れたスクリーン印刷技術および加工技術で、1960 年代中頃には国内初のアクセントストライプを自動車メーカーより受注。その斬新なデザインは自動車ユーザーからは好評であったが、製品を精度よく、安定して製作するには多くの苦労があった。しかし、大型印刷機や型抜き用大型プレス機の導入とその操作技術の習得により、高精度のものを大量生産することを可能とした。その結果、国内自動車メーカーに多く採用されるようになった。

高耐候性を要求されるアクセントストライプや車両マーキングには、それに適合した印刷インクおよびフィルムメーカーやインクメーカー 3 社と協力して、時代とともに変わる顧客からの要求性能に合致したインクやフィルムの開発に努めた。現在では環境に配慮した E L V 指令に準じた印刷インクおよびフィルムを使用している。

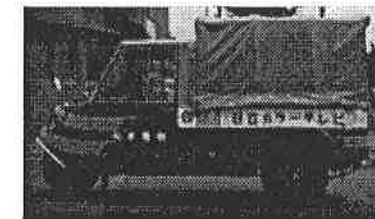
現在は、㈱星光商会の特徴であるスクリーン印刷技術、特に超大型印刷技術を駆使して、交通標識、景観サイン、フリートマーキング、看板制作等に業務を拡大して、広い分野でお客様のニーズに応えている。

向笠 久緒 (1985 年入社)
課長

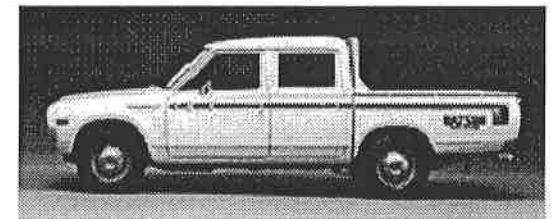
技術部試作設計課一筋に今日に至る。



今後も、企画から印刷・加工までの一貫した生産体制で、「小ロット・多品種製造」が必要な分野にも積極的に力を入れていきたいという。



国内で初めて企業のロゴやマークをスコッチライトフィルムを切り抜き自動車に貼り付ける「マーキング」で「車時代」の幕明けと「宣伝時代」に寄与した



国内初の「アクセントストライプ」を製作



人と車のコミュニケーションとなる「道路標識」
「見やすく」「わかりやすく」を基本に各種素材の開発、設計、施工、保守まで一貫したシステムで対応

□㈱星光商会 (代表取締役社長 薩川豊次)

人間社会の未来の Whats を見通し、未来の Needs を先取りする企業として日々創造革新と技術革新に努めていく。

本社

〒107-0005 東京都港区赤坂 3-9-16

TEL: 03-3585-2300 FAX: 03-3587-0246

<http://www.seikoshokai.co.jp/>

Coffee Break

道連れは、友と歴史と好奇心

名古屋ボデー(株) 近藤 忠保

11 年前 55 歳になった頃、これといった趣味がなかった私は、5 年先 60 歳の定年を迎えるにあたり、何か趣味らしきものを見付けておこうと思っていました。その矢先、知人から「新内」の家元により「新内」を聞かせてもらい、説明が聞ける会があるから参加しないかと誘われ、こんな機会は二度と無いと思い、参加しました。

参加して初めて、この会は歴史愛好家グループの懇親会を兼ねた月例会であると知りました。初参加の私にも会員の方々は、大変親切で楽しい時間を過ごすことが出来ました。誘われるままに、2 回、3 回と月例会に参加を重ねました。

観光バスによる日帰りの担当会員による歴史散策の「研修会」あり、貸会場を利用した「学習会」(会員の研究発表会)ありと毎月グループの方とお逢い出来ます。

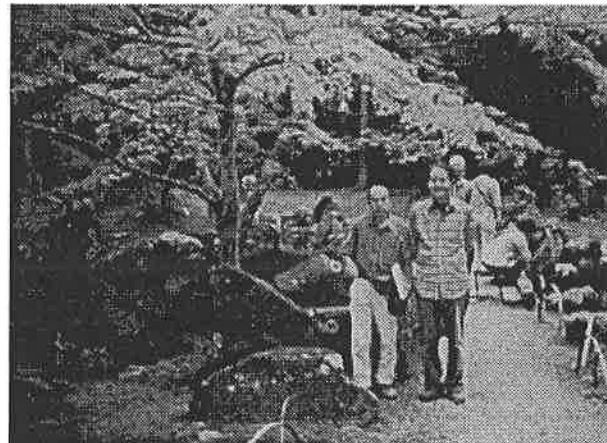
比較的年輩の方が多く、また非常に詳しく研究をなさっている方も随分みえ、研修会・学習会共に 20 ~ 30 ページの説明資料が配布されます。研修会では、バスの往復時間を利用してポイントの詳しい説明をいただき、歴史音痴の私には、聞くこと・観るもの、全てが大変新鮮であり、今でも毎回感動の連続です。歴史に詳しい諸兄は、私の幼稚で素朴な質問・疑問にも親切に解りやすく説明をしてくれたり、適当な資料を下さったり、他のグループの会に誘ってもらったりと、自分は特に何も努力しなくても、多くの皆さんと親しく集う機会を得、すでに 11 年の歳月が経ってしまいました。近年は、得るばかりでは申し訳ないので、事務局として裏方のお手伝いをしています。

そうこうしている内、今年 3 月の研修会では、初めて担当者の 1 人として「琵琶湖疏水」を担当しました。およそ半年前よりその準備のため、資料を集めたり疏水記念館を訪ね職員の方から説明をいただいた

り、数回にわたり現地を訪ねたり、調べれば調べるほど、その国家事業に関った偉大なる諸先輩の数多くの英断と英知により巨大プロジェクトは短期間で大事業を成し遂げたことに、感銘を受けました。明治 2 年、天皇・政府も京都を出て、東京遷都、廃藩置県と朝廷・公家の廃止によるダメージにより京の町は、人口も産業も激減し空虚なものになってしまいましたが、このプロジェクトの恩恵により現在の京都に発展することが出来ました。

こんなことをしながら休日には多くの友人と楽しく過ごしております。

諸兄も何かに関心を持たれたら、先のことを深く考えるのは後回しにして、まずは参加してみたいかがでしょうか。意外と簡単に趣味と出会えると思います。



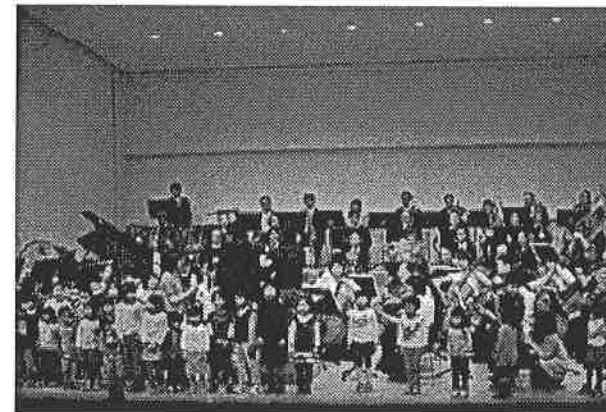
研修会にて会員の方と(左が筆者)

休日の相棒

日本トレクス(株) 坂田 圭

私の休日は、永年親しんでいる「相棒」と過ごすことが多いです。その「相棒」とは「トロンボーン」であり、「過ごす」とは「演奏を楽しむ」ことです。中学校のブラスバンド部で始めた楽器の演奏が、こんなにも長い趣味になるとは思いもしませんでした(人生の 3 分の 2 以上を一緒に過ごしています)。高校生の時からアマチュアオーケストラに所属し、音楽の楽しさを覚え、ますますのめり込んでいきました。

オーケストラという団体は、100 名からなるメンバーの共同作業で音楽を作り上げるところです。一人



所属するオーケストラの親子コンサート
(最上段向かって右側より二人目が私)

一人の思いや技量は違いますが、良い音楽を作り上げるという目標に向かって、週末に練習を重ねています。年 2 回の定期演奏会のうち、先日、上半期を無事に終了することが出来ました。

たくさんのメンバーが集まるオーケストラでは、さまざまなドラマが起こります。「音楽を作り上げる」という大きな共通目標のおかげ、非常に居心地も良く、楽しみながら活動を行っていくことが出来ます。社会人になってから転勤も経験しましたが、この趣味のおかげで地元にもスムーズに溶け込む事が出来て非常に助かりました。仕事以外の大切な繋がりです。

私の演奏するトロンボーンという楽器は、人間の声に最も近い音色を持つと言われ、「天井の響き、父なる神の声」と形容されます(上手な方の演奏は、です)。オーケストラの中でも弱奏(ピアノ)でコーラル(和音で進行するメロディ)を演奏する時が、一番の見せ場ではないでしょうか? もちろん、強奏(フォルテ)の時も、オーケストラ全てを制する程の音量を出すことも出来ます。また、私が演奏するジャンルはクラシックですが、ジャズ等の他のジャンルでも大活躍する楽器なのです。

良い音で良い演奏をすることはなかなか難しいこの相棒ですが、これからも楽しめる趣味として時間の許す限り続けていこうと思っています。

これまでも、これからも

昭和飛行機工業(株) 東 拓次

2010 年は私にとって特別な年。ワールドカップ南アフリカ大会開催の年です。

幼少より、兄の影響を受け地元クラブでサッカーを

始めた私は、25 歳を迎える今でもサッカーに夢中です。小学生から大学生までの 16 年間、常にサッカー中心の生活を送ってきました。

社会人になって早 3 年が経過しようとしています。休日は未だに変わることなくボールを追いかけています。ワールドカップ南アフリカ大会、真夜中に自宅で一人日本代表の試合を観戦し、翌日眼を擦りながら仕事をしたことは、私にとって日本国民としての誇りです。

私がサッカーを続けるのは、社会人となり、運動不足を解消するためもちろんですが、一番の理由は共に時間を過ごした仲間たちと集まることができるからです。

学生時代には、所属チーム以外にもサッカーを通じて多くの友人ができました。サッカーを通じてできた友人とは社会人になった今でも親しくしています。地元の仲間とは、月に 2、3 回開かれる地元の社会人リーグに参加し、高校時代の仲間とは現役学生の試合を観戦、大学時代の仲間とは一般で開催されているサッカーやフットサルの大会に参加するなど、今でもサッカーを通じてできた仲間とは親しくしています。また、助っ人等で招待され、共通の知り合いを通じて新たな出会いがたくさんあることも、サッカーをやめられない理由の 1 つです。

年代毎に共にボールを追いかけた仲間と汗を流し、夜はジョッキ片手に当時の話で盛り上がっている時が私にとって最高の時間です。

入社してからというもの、学生時代にサッカーしかしてこなかった私は「あなたの趣味は?」と聞かれ「サッカーです」と答えることに抵抗がありましたが、結局のところ、これまでも、これからも、ボールを追いつけることとなりそうです。



昭島代表で都民大会に出場し優勝(2004年6月)
(下段左から2番目が私です)

会員会社の生産台数推移

■ 2010年1月～6月 生産状況概要

(1) 特装車

- ・1月～6月累計では対前年比31%増（輸送系車両が50%増、作業系車両が前年並み、輸出が26%増）
- ・直近でも4月35%増、5月47%増、6月29%増であるが、1～6月累計の2008年比較では42%減と低水準

(2) 特種車

- ・1月～6月累計では対前年比52%増（車いす移動車11%増、警察車104%増、その他89%増）
- ・台数の多い車いす移動車は対前年比11%増となっているが、2008年比では6%の減少
- ・警察車の104%増については、2009年度の補正予算による特需によるもので、一過性のもの

(3) トラック（除くメーカー標準車）

- ・1月～6月累計では対前年比41%増。特に3月以降は40%以上の増加が続いているものの、ポスト新長期規制等の駆け込み需要と考えられる
- ・2008年比較では51%減であり、回復にはほど遠い状況が継続

(4) バン

- ・1月～6月累計では対前年比34%増、2008年比較では28%減と低水準
- ・ドライバンは3月以降60%以上の増加が続いており、5月は101%、6月は120%の増加となっているものの、トラック同様ポスト新長期規制等の駆け込み需要と考えられる

(5) トレーラ

- ・1月～6月累計では対前年比36%増（平床10%減、バン78%増、コンテナ62%増、その他6%増）
- ・2008年比では55%減、2007年比では38%減の水準ではあるが、3月、5月、6月は対前年比で2倍近い生産台数

(6) 大中型バス

- ・1月～6月累計では対前年比39%増（路線32%増、観光41%増、自家用77%増）
- ・4月、5月は、対前年比で2倍近い台数の増加。これは路線車の増加によるもので、トラック等同様、ポスト新長期規制等の駆け込み需要と考えられる

(7) 小型車（小型部会員の委託生産の乗・商用車）

- ・1月～6月累計では対前年比48%増（国内54%増、輸出41%増）であるが、2008年比較では20%減と低水準
- ・直近の3カ月は約20%以上の増加

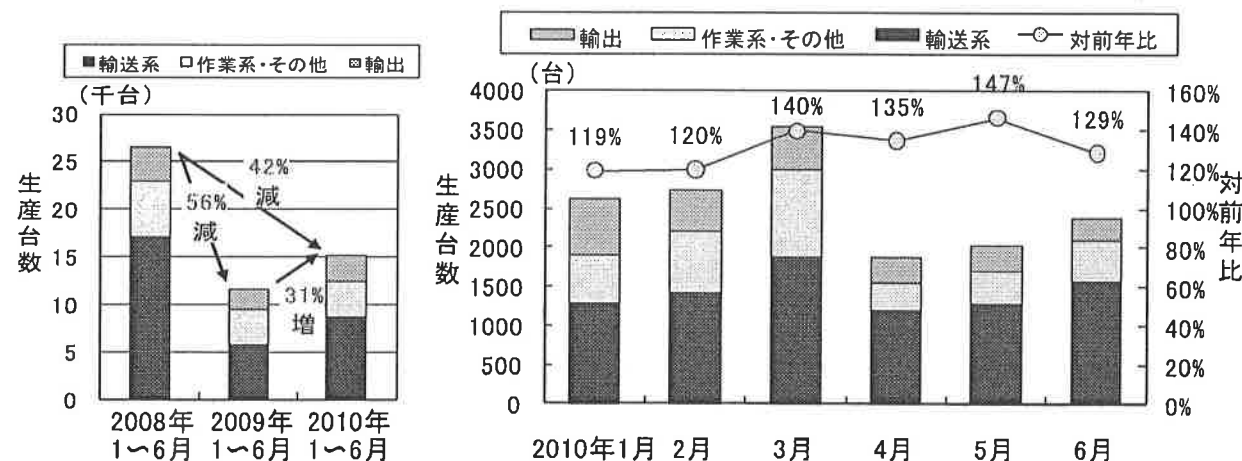
車体工業会会員生産台数の公表について

昨今の急激な景気変動にともなう業界全体の状況をいち早く社会全体へ公表するために、4月から会員生産台数データを当会ホームページに公開しております。

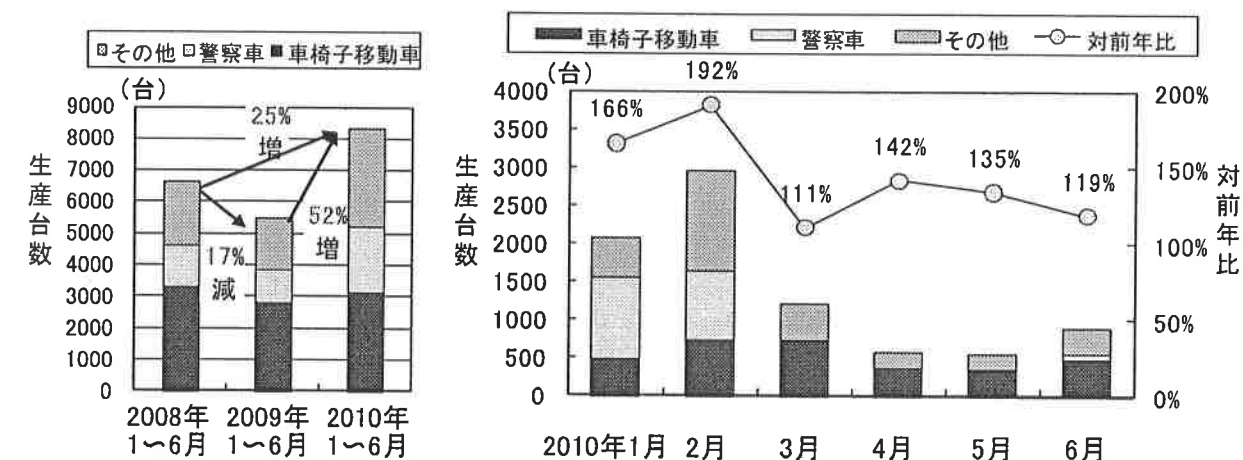
<http://www.jabia.or.jp/data/index.php>

なお、これにともない2010年夏号から車体NEWS「DATA BOX」は、詳細データの掲載からグラフデータに内容を変更しています。

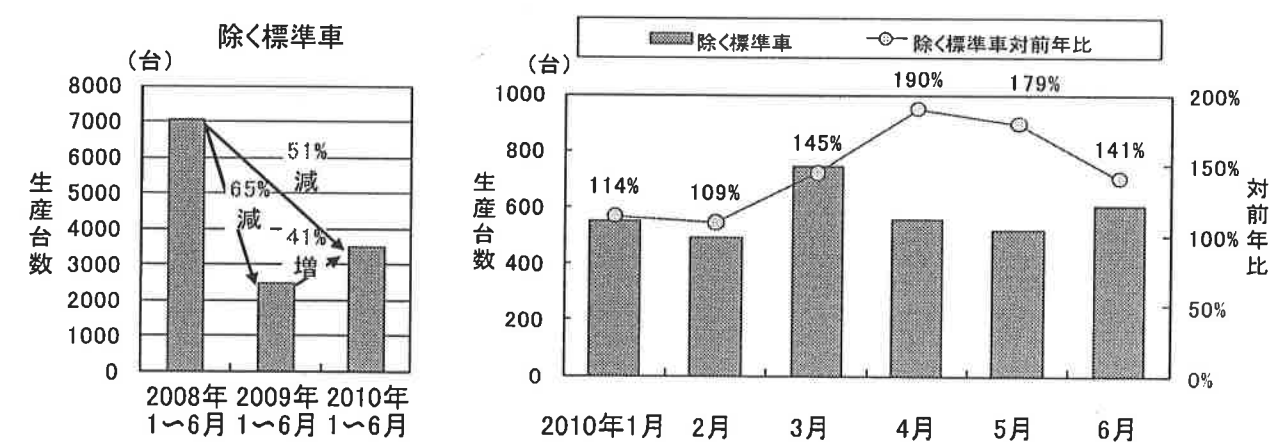
特 装 車



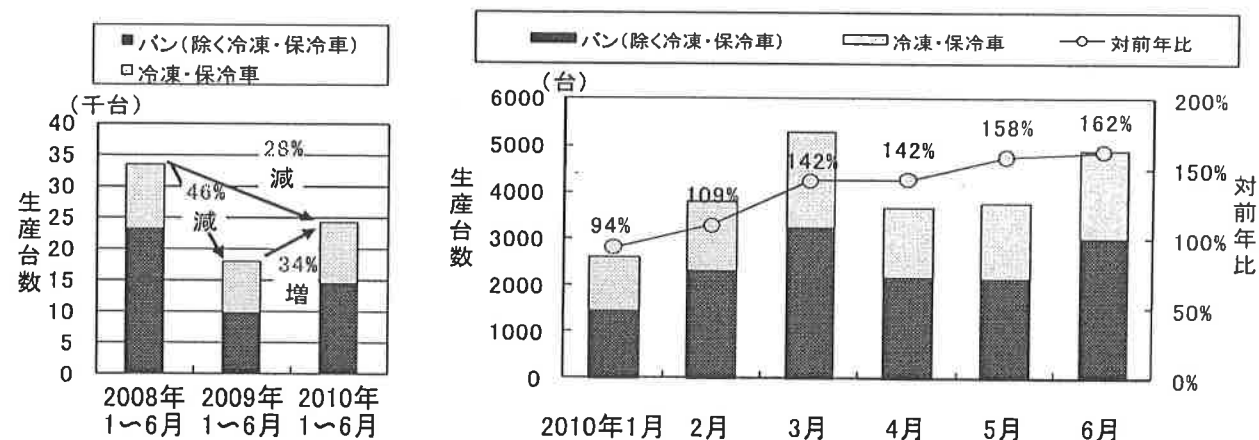
特 種 車



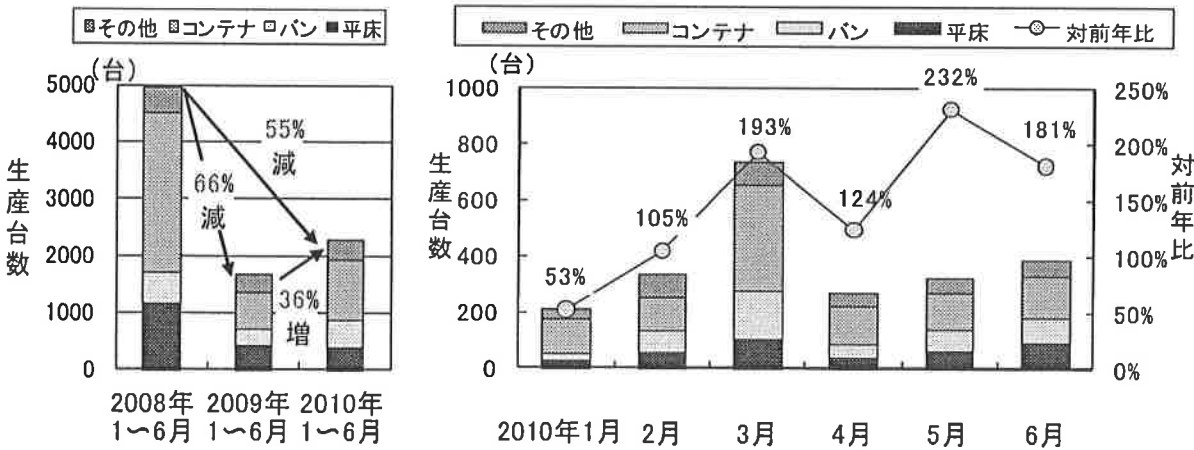
トラック



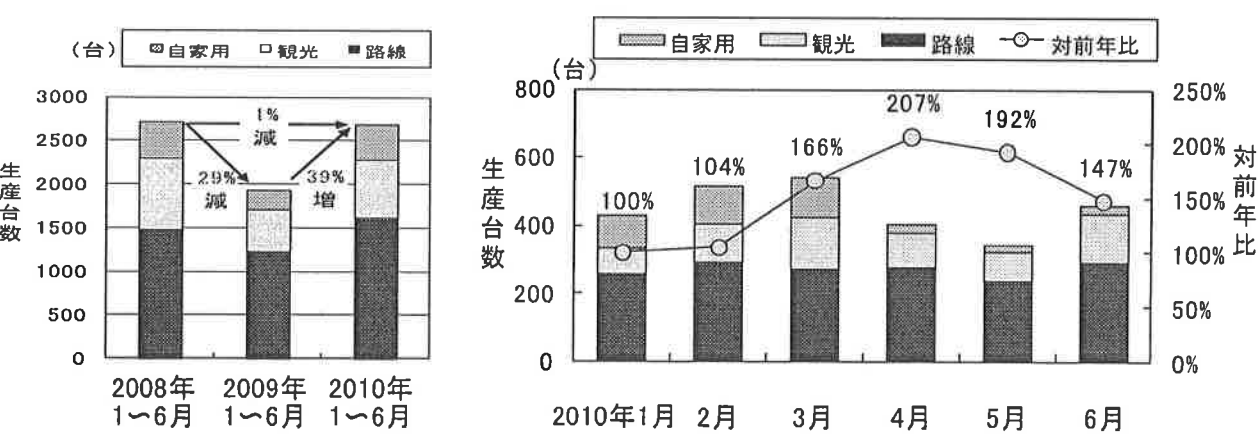
バ ン



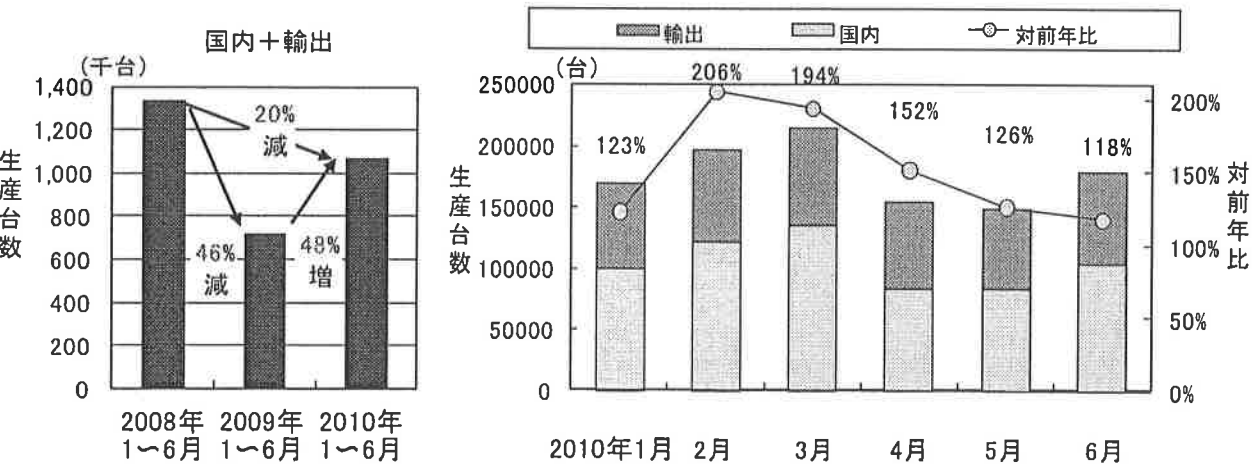
トレーラ



大中型バス



小型車 (小型部会員の委託生産の乗・商用車)



素材登録について

車体工業会では難燃性内装材やノンステップ（以下 NS）バスの認定基準を満足した防滑床上張り材等の素材登録を行っており、車体 NEWS では登録済みの「燃焼性試験実施者の素材登録届出状況」「防滑性床上張り材の登録」について掲載する。なお、当会ホームページにも資料を掲載しているので、ご活用いただきたい。

<http://www.jabia.or.jp/data/index.php>

1. 難燃性素材登録 登録一覧

①材質別確認番号の内訳

2010年3月31日現在

材質記号	確認番号	材質	点数
A	0001-0161	アクリル	158
C	0001-0025	木綿	25
N	0001-0303	ナイロン	301
Pes	0001-1618	ポリエステル	1,589
Pet	0001-0016	ポリエチレン	14
PP	0001-0043	ポリプロピレン	38
U	0001-0268	ウレタン	233
V	0001-1500	塩化ビニール	1,310
W	0001-0048	ウール	45
Z	0001-0431	その他複合材等	382
合計	—	—	4,095

②燃焼性試験実施者の素材登録届出状況

2010年3月31日現在

区分	指定番号	指定を受けた事業所	登録届出の素材等	点数
準 会 員	1	日本シール㈱	素材メーカー 表皮材（モケット、レザー等）	549
	2,3	住江織物㈱	素材メーカー 表皮材（モケット、レザー等）	1,181
	4,5	㈱川島織物セルコン	素材メーカー 表皮材（モケット、レザー等）	300
	6	天龍工業㈱	素材メーカー 椅子用等複合材（自社用）	235
	8	タキロン㈱	素材メーカー 床材	60
	9	ロンシール工業㈱	素材メーカー 床材、表皮材（レザー等）	105
	10	㈱タチエス	素材メーカー 椅子用等複合材（自社用）	89
	12	明和グラビア㈱	素材メーカー 床材	43
	13	㈱龍村美術織物	素材メーカー モケット、カーペット	29
	14	共和レザー㈱	素材メーカー レザー、ビニールシート	319
	21	アキレス㈱	素材メーカー レザー、発砲ウレタン等	89
	24	リンテック㈱	素材メーカー 貼付材（薄紙）	1
	27	シンコールマテリアル㈱	商社 レザー等	370
	28	㈱東洋クオリティワン	素材メーカー 発砲ウレタン	42
	30・31・32	東洋ゴム工業㈱	素材メーカー 発砲ウレタン	53
	33	富双合成㈱	素材メーカー 床材	151
	34	㈱ディ・エヌ・ケー	商社 レザー等	11
	35	東リ㈱	素材メーカー 床材、カーペット	34
	38	日本ビニール工業㈱	素材メーカー レザー	44
	39	マロン㈱	素材メーカー レザー	22
	40	東京シンコール㈱	商社 モケット・レザー等	106
	44	フクビ化学工業㈱	素材メーカー 床材	29
	45	リケンテクノス㈱	素材メーカー 貼付材（薄紙）	1
	46	㈱パイス	素材メーカー モケット・レザー・床材等	12
	47	三池工業㈱	素材メーカー 床材	2
	48	㈱エービーシー商会	素材メーカー 床材	10
	49	市岡㈱	素材メーカー 床材	79
	50	住友スリーエム㈱	素材メーカー 床材	5
	51	㈱東名	素材メーカー 内装材	3
小計				3,974
正 会 員	15	関東自動車工業㈱	素材メーカー 内装用等複合材（自社用）	0
	17	日産車体㈱	素材メーカー 内装用等複合材（自社用）	5
	25	トヨタ車体㈱	素材メーカー 内装用等複合材（自社用）	108
	37	㈱オーテックジャパン	素材メーカー 内装用等複合材（自社用）	8
小計				121
			合 計	4,095

DATA Flash

2. 防滑性床張り材一覧表

2010年7月31日現在
170点

難燃性素材 登録番号	届出者	商品名	難燃性素材 登録番号	届出者	商品名
Pet-0013	タキロン㈱	ベルスシート VS	V-1211	東リ㈱	NS840
V-0001	日本シール㈱	セフティモザイク	V-1214	住江織物㈱	スミノエ RM
V-0006	日本シール㈱	セフティフロア	V-1224	ロンシール工業㈱	ロンマット NI2.0mm
V-0091	明和グラビア㈱	エクセル MX9001	V-1225	ロンシール工業㈱	ロンマット NN2.0mm
V-0092	明和グラビア㈱	エクセル MX9011	V-1227	㈱バイス	NT シリウス
V-0093	明和グラビア㈱	エクセル MX9021	V-1228	㈱バイス	NT ルナ
V-0094	明和グラビア㈱	エクセル MX9031	V-1229	㈱バイス	NT ベガ
V-0095	明和グラビア㈱	エクセル MX9041	V-1230	㈱バイス	NT ボラリス
V-0096	明和グラビア㈱	エクセル MX9051	V-1231	㈱バイス	NT ヘリオス
V-0150	住江織物㈱	MX-9045	V-1232	㈱バイス	NT セーフバス
V-0151	住江織物㈱	MX-9051	V-1233	㈱バイス	NT ロゴバス
V-0152	住江織物㈱	MX-9052	V-1235	㈱バイス	NT ギャラクシー
V-0155	住江織物㈱	MX-9041	V-1236	ロンシール工業㈱	デザインフロア S2mm (トラバート 2)
V-0157	住江織物㈱	MX-9043	V-1237	ロンシール工業㈱	サハラ S2mm (トラバート 2)
V-0158	住江織物㈱	MX-9044	V-1238	ロンシール工業㈱	デザインロンリウムファシル 2.5mm
V-0159	住江織物㈱	MX-9031	V-1241	タキロン㈱	タキストロンタフスリップタイプキューー
V-0160	住江織物㈱	MX-9032	V-1243	タキロン㈱	ネオセーフ
V-0163	住江織物㈱	MX-9021	V-1261	富双合成㈱	ノンスキッドデザインファインテラソー
V-0168	住江織物㈱	MX-9011	V-1263	富双合成㈱	スーパーエンボス 2.8mm タタミ
V-0171	住江織物㈱	MX-9002	V-1264	富双合成㈱	スーパーエンボス 2.8mm 藤
V-0199	ロンシール工業㈱	デザインロンリウム コイン 2.5mm	V-1265	富双合成㈱	スーパーエンボス 2.8mm サイザル
V-0200	ロンシール工業㈱	デザインロンリウム C-2.2.5mm	V-1266	富双合成㈱	スーパーエンボス 2.8mm 古本
V-0207	ロンシール工業㈱	ロンマット ダイヤ 2.5mm	V-1267	富双合成㈱	スーパーエンボス 2.8mm セラミック
V-0208	ロンシール工業㈱	ロンマット ストライプ 2.5mm	V-1268	富双合成㈱	スーパーエンボス 2.0mm ミカゲ
V-0216	ロンシール工業㈱	ロンマット OV 4.0mm	V-1269	富双合成㈱	ノンスキッドエンボス
V-0217	ロンシール工業㈱	ロンマット C-2.4.0mm	V-1270	富双合成㈱	ノンスキッド PX4209-4212
V-0281	ロンシール工業㈱	デザインロンリウム コブルス 1.6mm	V-1272	明和グラビア㈱	PX-モザイクタイル
V-0282	ロンシール工業㈱	デザインロンリウム エクマンクロス 1.6mm	V-1273	明和グラビア㈱	PX-点ボツ
V-0436	東リ㈱	NS-500	V-1277	住江織物㈱	ノース
V-0439	東リ㈱	NS-800	V-1278	住江織物㈱	パビロン 20
V-0440	東リ㈱	NS-800	V-1279	住江織物㈱	パシアン N
V-0449	ロンシール工業㈱	デザインロンリウム ニューコイン 2.5mm	V-1280	住江織物㈱	ホバート
V-0489	東リ㈱	3mmNS-1300	V-1281	住江織物㈱	ロッセル
V-0588	ロンシール工業㈱	ロンマット ゴーフル 3.0mm	V-1291	ロンシール工業㈱	デザインロンリウム (FL) ファシル 2.0mm
V-0589	ロンシール工業㈱	ロンマット NS 3.0mm	V-1297	㈱エービーシー商会	アルトロ VM20
V-0590	ロンシール工業㈱	ロンマット フタツケ 3.0mm	V-1298	㈱エービーシー商会	アルトロ IP20
V-0601	ロンシール工業㈱	デザイン ロンリウム OV 2.5mm	V-1299	㈱エービーシー商会	アルトロ X25
V-0635	富双合成㈱	ボンリウムプロ MF タイプ	V-1300	㈱エービーシー商会	アルトロ D25
V-0644	富双合成㈱	ボンリウムプロ NNP-P タイプ	V-1301	㈱エービーシー商会	アルトロ TFM22
V-0659	住江織物㈱	スミノエ ザルカー	V-1302	㈱エービーシー商会	アルトロ TFCR22
V-0660	住江織物㈱	スミノエ アラーク	V-1303	㈱エービーシー商会	アルトロ MAXIS
V-0661	住江織物㈱	スミノエ メディーナ	V-1304	富双合成㈱	IFH
V-0662	住江織物㈱	スミノエ パビロン	V-1308	市岡㈱	IT40905
V-0692	タキロン㈱	タキストロンタフスリップタイプエムティ	V-1309	市岡㈱	IT30900
V-0694	タキロン㈱	タキストロンタフスリップタイプキューー	V-1310	市岡㈱	IT フラットフロア
V-0695	タキロン㈱	タキストロンタフスリップタイプイー	V-1311	富双合成㈱	IFK
V-0696	タキロン㈱	タキストロンタフスリップタイプエス	V-1312	㈱エービーシー商会	アルトロ IM20
V-0697	タキロン㈱	タキストロンタフスリップタイプエーティ	V-1313	㈱エービーシー商会	アルトロ TFM18
V-0700	タキロン㈱	タキストロンタフスリップタイプシー	V-1314	㈱エービーシー商会	アルトロ TFCR18
V-0710	東リ㈱	NS-400	V-1317	富双合成㈱	IFP
V-0766	タキロン㈱	タキストロンタフスリップタイプキューー	V-1318	住江織物㈱	バスラ N
V-0839	東リ㈱	フロアリウムリッチエンボス	V-1370	東リ㈱	フラット NS シート II
V-0840	東リ㈱	NS-822	V-1374	東リ㈱	NS デザイン
V-0885	住江織物㈱	MX-9061	V-1391	明和グラビア㈱	PX-モザイク拡大
V-0886	住江織物㈱	MX-9062	V-1393	富双合成㈱	ノンスキッド PX4205-4208
V-0887	住江織物㈱	MX-9063	V-1394	富双合成㈱	ブレーションエンボス
V-0888	住江織物㈱	MX-9071	V-1399	富双合成㈱	ノンスキッドデザインストレート
V-0891	明和グラビア㈱	エクセル MX9061	V-1400	富双合成㈱	ノンスキッドデザイングラフィック
V-0892	明和グラビア㈱	エクセル MX9071	V-1407	東リ㈱	NS シート NS8000 リアリティ
V-0935	日本シール㈱	セフティマット	V-1408	東リ㈱	NS シート NS9000 タフシャイン
V-0936	日本シール㈱	セフティフロア SF2.5m/m	V-1409	東リ㈱	NS シート NS800NS860 番台
V-0937	日本シール㈱	セフティフロア SGF3m/m	V-1410	東リ㈱	NS シート NS800NS870 番台
V-0938	日本シール㈱	セフティフロア SOV4m/m	V-1411	東リ㈱	NS シート NS800NS880 番台
V-0939	日本シール㈱	セフティフロア SOV2.5m/m	V-1412	東リ㈱	NS シート NS800NS890 番台
V-0940	日本シール㈱	セフティフロア SFK3m/m	V-1413	東リ㈱	NS シート NS4400 アクアトレッド
V-0979	ロンシール工業㈱	ロンマット NS2.5 mm	V-1414	東リ㈱	NS シート NS5800 ノイズレス
V-0980	住江織物㈱	スミノエパビロン 25	V-1416	ロンシール工業㈱	ロンクレオ (トラバート 2)
V-0993	富双合成㈱	ノンスキッド PX4196-4201	V-1417	ロンシール工業㈱	デザインロンリウムデリス
V-1008	富双合成㈱	ボンリウムプロ N・NP600 タイプ RN	V-1418	ロンシール工業㈱	ロンマット Z3
V-1009	富双合成㈱	ボンリウムプロ N・NP600 タイプ RT	V-1423	ロンシール工業㈱	ロンマット SP
V-1010	富双合成㈱	ボンリウムプロ N・NP600 タイプ RS	V-1443	市岡㈱	IMV
V-1011	富双合成㈱	ボンリウムプロ N・NP600 タイプ RD	V-1444	富双合成㈱	ノンスキッド (インレイドタイプ)
V-1012	富双合成㈱	ボンリウムプロ N・NP600 タイプ RK	V-1445	明和グラビア㈱	PX-フラット点ボツ
V-1072	ロンシール工業㈱	ロンマット N2 3.0m/m	V-1446	明和グラビア㈱	PX-目地広
V-1073	東リ㈱	東リフラット NS シート	V-1448	富双合成㈱	ブレーションエンボス・イグタ
V-1094	ロンシール工業㈱	デザインロンリウムドット	V-1488	住江織物㈱	SPV2009
V-1103	富双合成㈱	ボンリウムプロ NNP700 タイプ RB	V-1490	バイス㈱	エコフレックス
V-1120	東リ㈱	NS820	V-1500	明和グラビア㈱	PX-エーモスブロック
V-1137	ロンシール工業㈱	ロンマット N3 2.0mm	V-1504	バイス㈱	ウラヌス
V-1140	住江織物㈱	スミノエ N3	Z-0298	三池工業㈱	アベイラスアンブロップソフトタイプ
V-1172	富双合成㈱	ボンリウムプロ NNP800 タイプ VM	Z-0299	住友スリーエム㈱	セーフティウォークタイプ A (黒・緑・黄)
V-1173	富双合成㈱	ボンリウムプロ NNP800 タイプ VS	Z-0300	住友スリーエム㈱	セーフティウォークタイプ B (黒)
V-1187	ロンシール工業㈱	エルブールドット 2.0mm	Z-0302	住友スリーエム㈱	セーフティウォークタイプ C (黒・グレー)
V-1188	ロンシール工業㈱	エルブール	Z-0369	住江織物㈱	スミノエトレス
V-1210	東リ㈱	NS830	Z-0370	住江織物㈱	スミノエプレーザー



9月になっても記録的な猛暑が続いている。まさに世界的な異常気象だが、気象庁の見解は「猛暑は高気圧位置、海水温変化、海流変化、偏西風変化が主原因だが、地球温暖化が背景になっている可能性もあり」と曖昧な表現。気象に関して、特に地球温暖化との関係についてもう少し技術的に解明できないのか?と、暑さのためもあり、ついつい怒りっぽくなってしまふ。

当会会員の生産台数はホームページに詳細データのように分り易いグラフ表示とした。上半期の非量産車合計でみると昨年比 35%もの大幅増加だが、2年前比ではまだ 30%の大幅減少と、この2年間の変化はまさに異常なレベル。会員企業の毎月の生産変動への対応努力には敬服させられますが、下期は残念ながらポスト新長期規制や補助金終了のためまた減産となりそうである。当会としては毎月の生産状況を速やかにホームページで公開していきたい。(橋本)

臨時総会 (兼秋季会員大会) の開催のご案内

- 日 時 2010年12月2日(木) 15:00~18:30
- 場 所 日本自動車会館1階 くまプラザ
(懇親会:芝パークホテル 17:00~18:30)
- 臨時総会議題 一般法人化に伴う定款変更について
- 秋季会員大会講演会内容
「大型トラック・バスの需要動向と架装メーカーに望むこと」
講師:日野自動車㈱国内企画部部长 村松秀俊 氏
- 参加費用 無料
- 申 込 み ホームページまたは会員に郵送する用紙にてお申し込み下さい。

●車体工業会事務局新任挨拶

事務局次長 兼 総務部長 山尾 一元

7月1日、当会に参りました。総務部、広報委員会、小型部会等を担当しております。会員の皆様の活動をサポートできるよう頑張っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



●広報委員交代(事務局)のお知らせ
このたび、瓜谷優一に変わり、新たに山尾一元が広報委員に就任しました。よろしくお願いします。

この会報「車体 NEWS」は、主として自動車車体にかかわる法令改正等の動きを情報としてとりまとめ、春、夏、秋、冬の4回、季刊発行により関係方面の方々に毎回およそ 1,700 部を送付させていただいております。
送付先は当工業会会員事業所他全国の大型車等の自動車販社、各都道府県のバス、トラック協会、バス、トラックの大手ユーザー、全国の経済産業局、運輸局、運輸支局、自動車検査(独)検査部・事務所、日本自動車車体整備協同組合連合会、軽自動車検査協会および自動車関係団体となっております。

広告掲載会社	
住友スリーエム株式会社	表 2
極東開発工業株式会社	31
株式会社岡山溶接所	32
社団法人日本自動車体工業会	33
株式会社損保ジャパン	表 3
交通エコロジー・モビリティ財団	表 4

車体 NEWS 秋号 2010

2010年9月15日発行
発行所 社団法人 日本自動車車体工業会
〒105-0012 東京都港区芝大門 1-1-30
TEL 03-3578-1681
FAX 03-3578-1684
発行人 橋本 茂